

金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈
金田一京助宛ノート散文説話「一人の頭の禿げた白いかさぶたがフケになっている女性
性がくにの上手からやって来るウェペケレ (sine esukopitce retar cima koeyanrasne
menoko mosir pa wano ek uepeker)」

藤田護

キーワード：アイヌ語、金成マツ、口承文学、散文説話

1. 資料とその特徴

本稿では、筆者のこれまでの取り組みに引き続き、金成マツが筆録した口承文学の散文説話を翻刻し、現代アイヌ語表記にするとともに日本語対訳を付して公刊する。今回は、金田一京助宛筆録ノートのなかの散文説話の一つ、「一人の頭の禿げた白いかさぶたがフケになっている女性がくにの上手からやって来るウェペケレ (Shine esukopitche retar chima koeyanrashne menoko moshirpa wano ek uwepeker)」をとりあげる。【カワウソ私に化ける1および2】【鹿の妻】【雪狐】の3編の散文説話は昭和4年(1929年、月日は不明)に筆録されたものであったが、本稿の散文説話はそこから2年経って昭和6年(1931年)8月7日に書き記されている。金成マツは、この同じ年に続けてパナンペ・ペナンペ譚を2編、そしてその同じ年の少し後と思われる時点(詳細な月日は記されていない)で「川獺の神の妹の乳とウラシベツ姫の乳と替える昔話 (Esaman kamui matnepo toho newa urashbet un katkemat toho utasare uyebekeker)」を筆録しており、この時期に再びまとまった数の散文説話が金田一京助宛に筆録されていることになる。

本編とそれまでに筆録された散文説話とのあいだの大きな違いは、ノートの行の全体を使って書かれるようになったことである(筆録形式の具体的な転換時点については【雪狐】を参照)。これまで公刊してきた、より早い時期に筆録された散文説話では、英雄叙事詩の定型表現が多く用いられ、また英雄叙事詩に近い物語設定であったり、物語内で英雄叙事詩を語る場面が具体的に描写されていたりするなどの特徴があった。これは、金田一京助がまずもって英雄叙事詩に関心をもっていたことを、金成マツが考慮して筆録していたからかもしれない。本稿で扱う物語においては、文体そのものが、より散文の特徴を帯びたものになっているように思われる。

この物語は、主人公のウラシベツの村長が、外見が悪く、頭の白いかさぶたを削り落として、煮て食わせようとする女性の訪問を受け、その真価を見抜く目をもってしたこと、その女性が実はトゥレブ(オオウバユリ)のカムイであることを教えられ、これを山菜として利用する術を覚えてもらう。主人公はこの知識を伝えた村々から感謝され、子どもにも恵まれるようになるという、全体としては

食糧の起源譚となっている。白いかさぶたであると思われるものはオオウバユリの澱粉だったのであり、人間の世界においては禿げてかさぶた（＝澱粉）だらけの格好でいるこの女性は、夢の中で主人公に語りかける際には頭髮を有している。すなわち、このかさぶた（＝澱粉）は人間の世界に来る際にカムイが自らの身にまどって現れる、人間への「お土産」であるらしいことが分かる。

本稿でとりあげる物語テキストで注目されるのは、日本語で「食糧」と訳されることの多いアイヌ語の haru の用法である。【沙流辞典】p.172 においては「自然から恵まれた食糧、みのり、収穫（畑の作物、野草等）」とされる。ここからは、直接収穫・採集された物のことを haru と言うのであろうと推察されるが、本文中の注釈でも指摘するように、本テキストにおける haru kar という表現には「オオウバユリを収穫する」ことに加え、「収穫後に、粉にしたり団子にしたりして、保存できる食糧に加工する」ことをも指していると解釈できる箇所がある。両者の境界線は必ずしも明らかではなく、訳において必ずしもきれいに訳し分けることができていない。【植物篇】p.196 においては、haru とはオオウバユリのことであるとも述べられており、それだけオオウバユリが重要な食糧であることが知れるが、同時に、この物語テキストにおいてはオオウバユリのカムイは自らを haru ikkew 「食糧の中心」であると述べており、必ずしも haru がオオウバユリだけを指しているわけではない。なお、この haru ikkew という表現については【植物篇】p.196 の「オオウバユリ」の項目もオオウバユリとギョウジャニンニクがこのように呼ばれることを指摘しており、同項目のなかで、以下で検討する本稿の物語の知里真志保が記録した類話の筋を紹介している。

この物語において注目すべき点のもう一つは、オオウバユリを収穫した後の加工のしかたについて、アイヌ語で詳細な説明がなされていることである。以下の物語テキストにおいて、原ノートの頁数で特に p.22 においては、turep uta 「オオウバユリを白で搗く」、poronno irup uk wa satke 「たくさん澱粉を取り出す」、irup sito a=suye wa hene a=ma wa hene a=e 「澱粉のシト（団子）を私たちは煮たり焼いたりして食べる」、irup a=uk okake ne sicihi a=onka 「澱粉を取り出した後の〔その〕残りかすを発酵させる」、a=toykouta wa rupne akam a=kar wa soy ta kes to pirkano a=satke 「それをしっかり搗いて、大きな輪っかを作って外で毎日よく乾かす」など、そしてこの最後の物を ontuprep と呼ぶことなどが詳細に述べられている。それ以外にも、オオウバユリの澱粉（イルプ）と発酵させたオントウレプが並列され、両者が並び立ち重要であることが示唆されているなど（原ノート p.12 や p.23）、本物語テキストからはアイヌ文化の詳細を様々に読み取ることができよう。金成マツの語りの特徴は物語細部の描写が豊かな点であり、そこでは民族誌的詳細が豊かに表現されていると言えよう。

オオウバユリのカムイが憑き神となることで、それまで子どもがいなかった主人公夫妻は子どもを多く授かることになる。これまでに公刊してきた物語では、【六人の山子】において、キツネのカムイが主人公の憑き神となることで、子どもがいなかった主人公夫妻が子どもを授かった。この場合は、キツネが子だくさんであることから子を授ける力があるのかとも考えうるし、オオウバユリのカムイ

の場合には、食糧としての豊穰さが子を授ける力につながるのかとも考えられそうだ。ただし、これらの具体的な場合を超えて、ある程度以上の位の重いカムイには子を授ける力が必ずあるのか、それともこれらが女性のカムイであることが関係しているのかなど、検討すべき要因は複数ありそうだ。

知里真志保も本稿の物語の類話を金成マツから記録しており、これは【知里真志保ノート 4】「1.3 Moshiri-pa wano shine pon rupne-mat osoma wa eyar kor ek 東より小老女糞便をすすめつつ来る事」において翻刻・日本語訳がなされている。主人公はともにウラシベツの村長であるが、金田一京助宛のテキストにおいては、一人の女性「オオウバユリのカムイ」が白いかさぶたの煮物を勧めながら来るとされるが、知里真志保宛のテキストにおいては、一人の老婆「オオウバユリのカムイ」が一人の若い娘「ギョウジャンニクのカムイ」を連れ、糞（osoma）を食べさせながら来るとされる。この点では、金田一京助宛のテキストの方がやや上品で、知里真志保宛のテキストの方がやや下品であると言えるだろうか。一方、物語細部の表現については、知里真志保宛のものよりも、本稿の金田一京助宛の物語テキストの方が相当に詳細である。蓮池（1997）は、かつて金成マツが金田一京助と知里真志保に宛てて筆録した同じ英雄叙事詩の物語を比較検討し、知里真志保宛に筆録したものが心情描写や具体的な行為の叙述が細やかであることを指摘し、金田一宛の物語が叙事的であり、知里宛の物語が叙情的であるとした（同、pp.274-278）。しかし、本稿でとりあげる物語については、設定については――2種類の食糧の起源譚であるという点で――知里真志保宛の方が手が込んでいるが、会話の情感の細やかさや民族誌的詳細の叙述という点では金田一京助宛の方が手が込んでいると言えよう。オオウバユリのカムイの外見についても、本稿の金田一京助宛のテキストにおいては詳細な描写があるが、知里真志保宛のテキストにおいては特に描写がない。そうすると、金成マツの筆録は、その叙述の詳しさと豊かさという点では、金田一京助と知里真志保のあいだで差をつけようとしているわけではなく、両者それぞれに対する姿勢については何か他の側面に差異を求めなければならないかもしれない。現時点では、筆者は、金田一京助宛の散文説話には英雄叙事詩を意識したような内容の物語が多いという特徴は指摘できるのではないかと考えており、また類話において訪れてくるカムイが食べさせるのが糞らしきものであるという点は、知里真志保の要望を意識して応えているのかもしれないと考えている。

2. ものがたり

私は真の長者で、真の淑女を妻として良い暮らしをしているが、子どもがいなくて気がかりである。

ある年から、私が聞くことには「はるかくにの上手から、とても頭が禿げて、白いかさぶたでおおわれている女性が来て、訪れる村ごとに村長の家に入り、鍋を狩りて、そのかさぶたを水と混ぜて煮炊きして、村長夫婦に差し出し、夫婦が嫌がって食べられないでいると、怒って談判（チャラ

ンケ)を仕掛け、その夫婦の宝物を賠償品として取っていく」という噂が立っている。私は汚いな
と思ひ、妻も同様に心配をしている。その女性は私の村に近づいているという話で、私は「宝物は
たくさん持っているのだから、賠償の品は出せばよいが、相手が私の度量を試しているというな
ら、相手の素性を何とか見抜きたいものだ」と考え、カムイたちにこのことを言って聞かせ、祈り
ながらいる。

ある日のこと、外で犬が吠え、見に出た妻が戻ってきて「件の者が外に来ている」と言う。妻に
入れるように言い、その者が入ってくると、とても美しい少女が美しい着物を重ね着しており、頭
が禿げて、目の上までかさぶたがフケになっている。その者は、頭を座に押しつけながら袋の中を
何かで一杯にしているが、私の憑き神が何か不安に思っている様子もない。

その女性は私たち夫婦に鍋をひとつ請ひ、妻が一番良い鍋を貸すと、鍋に水を入れて、頭を掻き
むしり、かさぶたを粉末にして落として煮る。それが煮立つと、その女性は食器を請う。妻が綺麗
なお椀を出して渡すと、その女性はとても喜んで、高盛りをよそって私と妻に差し出す。その女性
は作った物を大変おいしそうに食べていて、私も美味しそうなので強い気持ちを持って一口食べて
みると、これほど味の好いものを食べたことがないと思うほどの山菜であり、どんどん食べる。妻
も強い心を奮い起こして食べてみて、実際に美味しい味に驚いている。私はお代わりをすると、そ
の女性はたいそう喜ぶ。

我々が四方山話を楽しむと、その女性はカムイの話ばかりをする。私の妻は左座に良い寝床を作
ってその女性を寝かせ、妻は奥に寝て、私は炉端で横になる。私はすぐに眠り込んでしまうと、私
の枕上にはその女性が、こんどは頭が禿げておらずに美しい髪が頭を覆い、金の小袖を重ね着し、
口元に笑みを浮かべながら私に向き直り、カムイであるからカムイの顔をまもって私に言うこと
に「ウラッペツの村長よ、私の話をお聞きください。あなたはカムイにも勝る雄弁さでカムイの加
護を受ける者で、賢いから、私の食糧を真っ先に食べ、そのおかげで私はカムイの所へ上がるこ
とができます。私はトゥレブ(オオウバユリ)の首領の女性頭であり、人間のくにも上手に住んで自
分の同胞たちを見守っているのです。はるか昔に、村造りのカムイ(コタンカラカムイ)が村や人
間たちを作り終わり、様々な食用になる植物や動物が作られたのですが、本来は食糧の中心である
はずの私のことを人間たちは知らず、誰も収穫せずにオオウバユリが腐り果ててしまっています。
なので、これを(私を)収穫して食糧を作るべきことを私は人間たちに教えたくて、山を下りてき
たのですが、村長たちに食べさせるとひどく気分を害し、ひどい言葉を私に投げかけるので、私は
腹を立てて賠償の品を取りながら来ました。

しかし、あなたのところまで来ると、優しい目線で良き言葉をかけてくれて、私の食糧を美味し
いと言ってきて、とても私は感謝します。あなたの妻に、オオウバユリを収穫して、それが澱粉
になることもオントウレブ(発酵澱粉)になることも教えるつもりです。あなたがたが、そのこと

をくに中の人たちに教えてくれれば、人間のくにが飢饉になっても、くにや村が復興するでしょう。明日あなたが起きたら、トゥレブというもの（オオウバユリ）をあなたは見て、幣棚の上手に私を立てて、私が天に上れるようにあなたが言ってくれば、喜びとともに私はカムイのくにに上りましょう。火のカムイも私の食糧を食べて、本当に喜んでくれています。私はあなたにたいへん感謝をするので、あなたたちには子どもがいまいませんでしたが、私からの返礼として、たくさんあなたたちは子を授かることになります。あなたたちの猟場一带にオオウバユリ原があり、毎年天から食糧がよくできるように私がしましょう」とカムイの女性が話すと思うと、私の目の前がさっと塞がり、目が覚める。

反対側の座に私が目をやると、確かに私の猟場の上にたくさん連なっているその美しい白い草が、寝床の中央で幅の広い葉を広げながら立っている。私の妻も飛び起きて、夢を見ていた内容に驚いている。私たちはオオウバユリを幣棚の上手に立て、大きな籠をほどいてみると、中にピカピカと光る宝物が、金の太刀、銀の太刀、銀の鐔、金の鐔などがたくさん交じって一杯になっているので、それらを宝壇の前に私は据える。

私は妻を励まししながら酒を醸し、オオウバユリの女性が通ってきた全ての村に雄弁な者を使いに出し、酒宴へと招待する。私の村人たちが集まって、酒漉しをしたり、イナウを削ったりし、妻はシト（団子）を作ったり、美味しい煮炊きをする。今や酒宴の準備を終えると、遠くの長者も近くの長者も私の家に到着して、皆が心配した様子である。

私は酒席の装いをして、横座の上手に座り、会見の辞や挨拶の辞を述べ、それから私のチャランケ（談判）をする声がカッコウのように真っ直ぐ飛び、オオウバユリの首領の女性が話したことを、よく私は長者たちや村人たちや大勢の女性足しに言って聞かせると、皆が本当に驚いて、鼻を押さえ、口を押さえする。「私たちはただの人間で、ただ汚がってばかりいたのですが、オオウバユリのカムイが私たちを試していたのですね。ウラシベツの村長夫妻は昔から評判が高く、カムイの言い伝えが分かり、弁が立ち、カムイに見守られて感心なことです。ウラシベツの村長のおかげで美味しいオオウバユリ of 山菜があって、子孫代々まで皆が養い合うことができます」と人々が述べ、沢山の拝礼（オンカミ）を繰り返す。

それから大勢の者たちにオオウバユリを見せたところ、驚いて「これは私たち山の猟場にたくさんあります」と人々は言う。私の妻がこれを収穫して食糧にするやり方をすべて教え、私はイナウや酒がオオウバユリの首領の女性に行くように祈る。

私はオオウバユリのカムイから受け取った宝物の数々を人々に分けようとする、人々は揃って驚き、「ウラシベツの村長がいるおかげでオオウバユリについて私たちは分かり、自らの口を養うことができるのだから、私たちの財宝は見劣りするでしょうが、感謝の品として差し上げましょう」と言う。私は「感謝の品は欲しくありません。オオウバユリで皆が自分の口を養うなら、そのこと

が嬉しいのです」と断るが、何度も人々は私に強いるので、何も受け取らないと皆が気を悪くするだろうと私は思って幾つか受け取り、長者たちはとても喜ぶ。それから盛大な酒宴を私たちは催し、酒を飲む合間に、食事をする合間に私たちは様々な話をし、人々は何度も感謝をしながら去っていく。

その後に私は妻と二人で、また寂しく思いながら暮らす。見てみると、幣棚に据えたオオウバユリも、イナウもシト（団子）も、美味しい食べ物も、たくさん置いたものがなくなって、私は驚く。私の妻や村人たちが大勢でオオウバユリを掘りに山へ行き、食糧の作り方も妻が村人たちに教え、村のあちこちでオオウバユリを臼で搗く音が鳴り響く。村人たちも喜んで、毎日笑い声や話し声が賑やかで、私もとても楽しく思う。妻はオオウバユリを臼で搗き、たくさんの澱粉を取り出し、毎日シト（団子）を私たちは煮たり、焼いたりして食べ、どのように食べても本当に美味しい。澱粉をとった残りを発酵させて、またそれをしっかり搗いて、大きな輪っかを作って外でよく乾燥させる。それらを名付けてオントウレブと呼び、それを夏にも冬にも我々は食べる。今や人間のくに中で、大勢の者たちがとても喜んで、たくさんの食糧を作って、自らの口を養っている様子で、それぞれの村で「ウラシベツの村長のおかげだ」と人々が言っていると私は聞いて、いっそうオオウバユリの首領の女性に私は感謝する。

カムイが言うことなので、私たち夫妻は子どもにも恵まれるようになり、毎年オオウバユリの食糧を作って、食べ続けて飽きることがない。遠くの村でひどい飢饉になっても、オオウバユリの食糧で村が復興すると私は聞く。私の猟運も上がり、私以上の長者は全くいない。私の息子たちは先に育った者が私を助け、狩り上手であり、私の妻もカムイに見守られながら、娘たちに自分を手伝わせ、精を出して畑を耕し、よく勤勉に働く。

良い暮らしをしたあげくに今は私たちは年をとって、足がきかなくなり、仕事ができなくなって家にいると、子どもたちが逆に面倒を見てくれ、孫たちを私たちは可愛がりながら、ずっと変わらなく暮らしたあげくに、「ずいぶん昔にこのようなオオウバユリの首領の女性の話があって、最初は私もただの人間だから、心配もし、恐れもしたのだけれど、カムイを頼みとして、そのおかげで私は何でもよく分かるようになった。おまえたちが生まれたのもオオウバユリの首領の女性のおかげで、いつまでもオオウバユリの食糧をたくさん作り、オオウバユリの首領の女性に祈りを捧げなさい。カムイに自分を守護してもらえば、何かあってもカムイが振り向いてくれるから、決して愚かな振る舞いをするのではないよ」と、多くのことを皆に教え、言い残して、私たちは良き老いをしていくのだ、とウラシベツの村長が自ら語る話だ。

3. 翻刻・現代表記・原文対訳

留意点

原ノートにおける改行はすべて半角の「/」で示している。ノートにはページ番号が振ってあり、翻刻においてはそのページ番号を踏襲している。以下は、原ノートのページごとにノートの翻刻、現代表記テキスト、およびその日本語訳を示していく。

現代表記については、ここまで千葉大学の各種刊行物で用いられた表記方法を踏襲している。翻刻については厳密にページに従って記しているが、現代表記と翻訳では、ページをまたぐことで理解が困難になるとと思われる語句のつながりについては、前のページか後ろのページに移して、まとめた。現代表記と翻訳については、後の整理の便宜を考え、ページ数とそのページ内の行番号を組み合わせた行番号をそれぞれ振ってある。訳の方針については、【カワウソ私に化ける2】を参照されたい。なお、発言については「 」で括ったが、心内語として独立している内容の場合には〈 〉で括るという工夫を試みる。

p.1

【原文翻刻】

shine eshu ko bitche retar chima / koeyanrashne menoko moshiripa wano / ek uyebekere. /
Shino Nishpa Anewa Shino katkemat / Ahekote wa shino uwe pirika an / wa okai an koroka batek
aeramube / kamambe uko po sak an batek ne / shine anpa wano ene inu an i / too moshiripa wano
shine menoko / sonno eshukobitche shine otoptu / ka isam no retar chima shukep / koerashrashke
kane ambe ek hi / ne kotan bishno sabane chise otta / Ahun wa shu etun wa anko echa- / kke koro shu
aerusa ko nei shu / oro wakka o wa orun nei an chima / shukep ne sabaha kerkeri wa / ukoboye aine
shuye wa hemanta / boro sonabi kotan koro Nishpa / umurek kobuni ko umurek uta / r oar oar e
nukurba ko nei / ambe rushka kusu yayocharan / ke kote kane Ikor sokkar ne Akor / wa okai kamui
korobe shinep ranke / Ashimbe ne uk wa orowa nei an

【現代表記・日本語訳】

0100 sine esukopitce¹ retar cima koeyanrasne² menoko

一人の頭の禿げた、白いかさぶたが頭にこびりついている女性が

0100 mosir pa wano ek uepeker [ここまでタイトル]

¹ esukopitce がどのような語構成なのか、よく分からない。e-pitce で「～の頭が・禿げている」になるが、e-su-ko-pitce 「その頭・鍋・に向かって・禿げている」ということがあるだろうか？

物語冒頭ではこの esukopitce という語形が用いられ、途中からは epitce が用いられている。とりあえず、ともに「禿げている」と訳してある。

² koyanrasne 【【動2】 ～でべとべとになる。～まみれになる <ko-「～と共に」yar「木の皮」ras「破片」ne「～になる」=「～で木の皮が張り付いたようになる」【千歳辞典】p.191。

cima-koyanrasne 「かさぶただけである、かさぶたがこびりついている」【萱野辞典】p.313。

- くにの上手からやって来るウェペケレ
- 0101 sino nispa a=ne wa sino katkemat a=hekote wa
 本当の長者で私はあって、本当の淑女を私は妻にして
- 0102 sino uepirka=an wa okay=an korka
 一緒にととても良い暮らしをしているけれど、
- 0103 patek a=eramupekamam pe³ ukoposak=an patek ne.
 私がただひとつ気がかりなことは、我々に子どもがいないことだけである。
- 0104 sine an pa wano ene inu=an h_i:
 ある年から、このようなことを私は聞くことに――
- 0105 “too mosir pa wano sine menoko sonno esukopitce
 「遙かくにの上手から一人の女性が、とても頭が禿げて
- 0106 sine otopu⁴ ka isam no retar cima sukep⁵ koerasraske⁶ kane an pe ek hine
 一本の頭髪もなく、白いかさぶたのがさがさばかりになっている者が来て
- 0107 kotan pis no sapa ne cise or_ ta ahun wa
 村ごとに頭領である家に入って
- 0108 su etun wa an ko ecakke kor su a=erusa ko
 鍋を借りていると、[その女性のことを] 汚がりながら人が鍋を貸すと
- 0109 ne su oro wakka o wa or un nean cima sukep
 その鍋に水を入れて、そこにそのかさぶたの貼りついているのを
- 0110 sapaha kerkeri wa ukopoye ayne
 自分の頭をこすってそれを一緒に混ぜたあげくに
- 0111 suye wa hemanta poro sonapi kotan kor nispa umurek kopuni ko
 煮炊きして、何か大きな山盛りを村長夫婦に差し出すと、
- 0112 umurek utar oar oar e nukurpa⁷ ko

³ 沙流のアイヌ語であれば、patek a=eykoytuypa p または patek a=esirkirap pe と言ったりするところであろうか。ただし、【音声資料2】 p.16 には、ukoposak=an wa tan pe patek a=eramukapekamam kor oka=an pe ne という表現が記録されている。

⁴ otopu 「かみ(髪); かみのけ; 頭髪 (中略) 注. ―頭髪の1本1本を云う。" sine otop-tu ka sak aynu " 「1本の頭髪もない男」【人間篇】 p.110。

⁵ 知里真志保によれば tur sukep ne という表現が存在し、「[tur (垢), sukep (焦げ飯), ne (のようである)] 《ホロベツ》垢でまっくろである」と説明されている【人間篇】 p.645。

⁶ erasraske 「痂が生じる」【人間篇】 p.101。

⁷ この箇所を見る限りは、nukurpa が助動詞として用いられているようだ。金成マツはこの単数形

夫婦が全くまったく食べる気にもなれないでいると

- 0113 nean pe ruska kusu yayocarankekote kane
その者は [そのことを] 怒るので、一人で談判 (チャランケ) を仕掛けて
- 0114 ikor sokkar ne⁸ a=kor wa okay kamuykorpe sinep ranke asinpe ne uk wa
最も尊い宝物として人が持っている宝物を一つずつ賠償の品として取って

p.2

【原文翻刻】

yep shu kokem kem eokere ko oro / wa sui ek tui kata kotan bishno / neino iki koro ek koro an ari /
an orushbe bahawe chihobunire / ouse inu ne wa Akipne koroka nep / sui Aechakke wa humash nan /
kora ohayokke An aesambe wen / kane yainu an ko Akoro katkemat / ne yakka ineno kane yainup /
ne kusu eashka yaiko uwebeke / re nep tap ne iram kittarara / isambe wenka katuhu ka okai wa / baye
kai hawe okai ika un Aokai / utar otta ekwa neino iki chiko / nekona ikichi an kusu ene ha / washu ta
an ari itak kane shino / eramu sarak koro okai Aokai / ne yakka shino arushka Ae / ramu sarak koro
Anan awa ta / ne anakne oar Akotani koe han / keno ek noine hawash chiki Asak / be hetap ikor neya
kamui korobe / neya chima hene ye hene Ae / kasu no boronno Akorobe kamui / korobe ne kusu
boronno Aashinke

【現代表記・日本語訳】

- 0201 orowa nean ye p su kokemkem e okere ko
それからそのように言う物を鍋ごとひたすら舐め、食べ終わると
- 0202 orowa suy ek tuyka ta kotan pis no neno iki kor ek kor an”
それからまた来る途中で村ごとに同じことをしながら来ている」
- 0203 ari an oruspe pahawe cihopunire.
という事の噂が立っている。
- 0204 ouse inu ne wa a=ki p ne korka nep suy a=ecakke wa humas nankor y_a,
ただ聞くばかり私はしているのだが、なんとまた私が汚く思う感じがすることだろうか、
- 0205 ohayokke=an a=esampewen kane yaynu=an ko
吐き気を催し、[そのことで] 気分が悪くなるように思うと
- 0206 a=kor katkemat ne yakka i=nenno kane yaynu p ne kusu easka yaykouepeker,

nukuri という語形を助動詞として用いている例が他に見えるが、nukurpa を用いている例は管見のところ他に見えず、貴重な用例かも知れない。

⁸ 「宝物の最も尊いものとしてゐる」【神謡集】 p.118。

私の妻も、私と同じように考えるものだから、とても不安に思っている――

- 0207 “nep tapne iramkittarara isam⁹ pe wen ka¹⁰ katuhu ka okay wa payekay hawe okay.
「何かこうとても恐ろしい者(?)がみすばらしい姿で歩き回っているという話を聞く。
- 0208 ikaun aokay utar or_ ta ek wa neno iki ci ko
もしかして私たちのところに来て、そのようにするならば、
- 0209 nekona ikici=an kusu ene hawas h_i ta an”
私たちがどうしたというので、そのようなことを言うのだろうか」
- 0210 ari itak kane sino eramusarak kor okay¹¹.
と言って、[私の妻は]とても心配している。
- 0211 aokay ne yakka sino a=ruska a=eramusarak kor an=an awa
私もとても [そのことを] 怒り、不安に思っていたところ、
- 0212 tane anakne oar a=kotani koehankeno ek noyne hawas ciki
今やさらに私の村の近くへと来ているらしい話で
- 0213 <a=sak pe hetap ikor ne ya kamuykorpe ne ya¹²,
〈私が持っていない物は、宝器であろうか、宝物であろうか、[反語]
- 0214 cima hene ye hene a=ekasu no poronno a=kor pe kamuykorpe ne kusu
「かさぶた」と言うものでも、私がそれ以上にたくさん持っている物が宝物であるから

p.3

【原文翻刻】

kuni Aramu koroka hemanta / menoko ene ichakkere an wa ba / yekai ainu he an Nitne kamui / hean hawe an nepne yakka nep / kusu ene eashiri katkoro i taan / nepne yakka nekonkata un iki / an wa neyakne nei ikip shinrit / kashi Akoeraman okai senne nebe / ka nepnewa neyakka Ikoramnu / karbe ne hawe hean tapne neha / we ne a yakne oar Anihi(?) oyakeun / ekbe somone nankoro Aunihi ta / ekwa ne yakne pirika no Anu / kar wa Akashkamuye Akoshiru / wante wa inkaran inu an kusu / ne ari yainu an kusu Arorkesh / ne kamui huchi hene chise koro / kamui hene nusa kor kamui / orobakno tapne kane nei kamui / obitta no Anure Ashiko inkare / kuni Ae kamui ko itak an kane / Anan awa

⁹ ここで isam がどのような意味を iramkittarara に加えているのかがよく分からない。

¹⁰ wen の後ろの ka が何かがよく分からない。

¹¹ この主語は主人公の妻で1人のはずだが、動詞は複数形になっている。

¹² Asakpe he tap / ikor he ne ya? / iyoipe he ne ya / oi pep hene ya? 「我が所持せぬものは 宝器にてありや 調度にてありや 食器にてありや」【虎杖丸別伝】p.116 (7682行目)。

shine an to esoyun / seta mik tambe kusu Akoro katke / mat soine awa orhetopo horka kira / iko binu
binu ene itak i Ayemup

【現代表記・日本語訳】

- 0301 poronno a=asinke kuni a=ramu korka
沢山償いの品を出そうと私は思うけれど
- 0302 hemanta menoko ene icakkere an¹³ wa payekay?
何の女がそのように汚くて歩き回っているのか。
- 0303 aynu he an nitnekamuy he an hawe an?
人間なのかそれとも魔物という話なのか。
- 0304 nep ne yakka nep kusu ene easiri katkor h_i ta an?
何であれ、一体どうしてそのような様子をしているのだろうか。
- 0305 nep ne yakka nekonka ta un¹⁴ iki=an wa ne yakne
何であれ何とかできるならば
- 0306 ne iki p sinrit kasi a=koeraman okay.
そのようなことをする者の素性の上を私は見抜きたいものだ。
- 0307 senne nepeka¹⁵ nep ne wa ne yakka i=koramnukar pe ne hawe he an?
ひょっとして何であれ私の度量を試すものだという話だろうか。
- 0308 tapne ne hawe ne a yakne
そういう話であったならば
- 0309 oar anihi¹⁶ oyake un ek pe somo ne nankor.

¹³ この icakkere の後にくる an が何であるかが問題になる。幌別では、金成マツ氏だけでなく知里幸恵氏も【ノート版神謡集】において、hm nep tap huraha / icakkere an / nitat ne kusu / huraha ka okay「ああ臭い何の匂いだろう こんなきたない 泥田だから ずいぶん臭い事」という形を記録しており、an は人称接辞ではなく動詞であるようだ。【白老アーカイブ】においては織田ステノ氏に同様の表現が見られ、icakkere an pe supa p「汚らしい奴が料理した物」とある（「織田ステノさんの民話(ア) 村長の息子と貧乏人の娘 (1988)」433 行目)。また、anmip ka isam icakkere oka=an hike「着る物もなく汚く暮しているのに」という表現があり（「織田ステノさんの民話(ア) 村長の息子と貧乏人の娘 (1988)」339-340 行目)、これは主語の 4 人称に合わせて an が複数の oka となっているようだ。

¹⁴ 以下の例と類似の表現であろうか――

nekonka ta / iki-an wa / ainu neino / anan wa / shinep poka / atuye okai! ari「どんなにか わたしがして 人間と同じに わたしもあって ひとりでも 斬りたいなあと」（【ユーカラ集 1】 p.189）

¹⁵ 「senne nepeka(1) ひょっとして (1) nepeka < nep-he ka 「何・か」」（【ユーカラ集 3】 p.388）

¹⁶ 3 人称の人称代名詞 anihi であろうか。あるいは a=unihi の u を書き落とした可能性があるだろう

まさにその者が他のところに来るものではないだろう。

- 0310 a=unihi ta ek wa ne yakne pirkano a=nukar wa
私の家へと来るなら、よく私は見て
- 0311 a=kaskamuye a=kosiruwante wa inkar=an inu=an kusu ne>
私の憑神によく注意を払いながら私は見たり聞いたりしよう
- 0312 ari yaynu=an kusu
と私は考えて
- 0313 arorkesne kamuy huci hene cisekorkamuy hene nusakorkamuy or pakno
こっそりと火の媼神にも家の守り神にも幣場の守り神のところにもまでも
- 0314 tapne kane ne kamuy opittano a=nure a=sikoinkare kuni
このようなことだと、カムイ皆に私は聞かせ、私を守ってくれるように
- 0315 a=ekamuykoytak¹⁷ (kamuykoytak=an?) kane an=an awa
私はカムイに祈りながらいたところ
- 0316 sine an to esoyun seta mik.
ある日のこと、外で犬が吠える。
- 0317 tanpe kusu a=kor katkemat soyne awa
なので私の妻が外に出たが
- 0318 orhetopo horka kira i=kopinupinu ene itak h_i:
ぐると引き返して逃げ、私に耳打ちをしてこのように言う――

p.4

【原文翻刻】

soita ekwa Anruwe taban ari ha / wash chiki hokure ahunke ari i / takan chiki kanna sui soine / wa ahunke kusu ye hawash / awa hemanta Ahup wa in / karan awa sonnoboka pirika / pon menoko pirikaamip batek / utom echiu kane okaibe ne koroka / sabaha shine otoptu ka sakno / shik enka bakno chima koerash / rashke eshuko bitche kane okaibe / shia oraiba harkiso ne hekorari / biro chitarbe oshke hemanta eshi- / k kane amba wa shirorketa ante / orowa ikurkashike uwambare in / karanko shiktumuke hene au / wante wa inkaranko nep ka wem / be ne yakun neino Akoeraman / nekonka

か。

¹⁷ このように a=ekamuykoytak ととると、後ろに余分な an が残ることになる。kamuykoytak=an という形もあるので、いったん他動詞として a=から始めつつ、最後に自動詞の人称接辞=an をつけてしまった可能性があるか。

yainu an nankorobe / ne koroka oar nekonka Akash / kamuye he orai ka somoki kane / Atek riki kur
buni kane Ako / on kami newa tapne kamui / hetapne Ainu hetapne baye / kai shiri okai hokure Akoro¹⁸
katkemat

【現代表記・日本語訳】

- 0401 “a=ye manu p(?)¹⁹ soy ta ek wa an ruwe tapan”
「噂の者が、外に来ていますよ」
- 0402 ari hawas ciki
と言うので
- 0403 “hokure ahunke”
「早く入れてやりなさい」
- 0404 ari itak=an ciki kanna suy soyne wa ahunke kusu ye haw as awa
と私が言うと、もう一度外に出て、家に入るようにと言う声があったところ、
- 0405 hemanta ahup wa inkar=an awa sonno poka pirka pon menoko
何かが入ってきて、私が見たところ、本当に美しい少女が、
- 0406 pirka amip patek utomeciw kane okay pe ne korka
美しい着物ばかりを重ね着しているのだけれど、
- 0407 sapaha sine otoptu ka sak no
その頭には一本の神の毛もなく
- 0408 sik enka pakno cima koerasraske esukopitce kane okay pe
目の上のところまでかさぶただけになって、頭が禿げている者が
- 0409 siaoraypa (siaworaypa)²⁰ harkiso ne hekorari
家に入り左座に頭を押さえつけて (?)

¹⁸ ここは最後の o があるかどうか、やや文字がかすれており不鮮明なのだが、金成マツ氏はこの語を koro と書くのが通例であるため、あるのだろうと判断している。

¹⁹ 原ノートに Ayemup とあるところだが、このような表現が意図されていたのではないかと解釈した。上で検討したこの物語の類話では、ここと似た箇所では a=ye manu p という表現が実際に使われている。

²⁰ shiaworaye 「shi- 「自身」 au 「内」 o 「に」 raye 「造る」。「屋内へ自身をやる」とは、すなわち「屋内へ入り来る」「屋内へ入り行く」をいう。ここは前者の方【ユーカラ集1】p.81。金成マツ自身の筆記が揺れているようで、【ユーカラ集3】【ユーカラ集6】【ユーカラ集7】などには本ノートと同様に shiaoraye と記されている。

- 0410 piro²¹ citarpe oske hemanta esik kane an pa wa sirorke²² ta ante
 ポロポロの(?) 袋の中を何かで一杯にして、それを本横座に出して、
- 0411 orowa i=kurkasike uwampare inkar=an ko
 それから私の上をじっと見定め、私が見てみると
- 0412 siktumuke hene a=uwante wa inkar=an ko
 眼つきでだか私がじっと見定めてみてみると、
- 0413 nep ka wen pe ne yakun neno a=koeraman
 何か悪い者であれば、そのように私は分かり
- 0414 nekon ka yaynu=an nankor pe ne korka
 何か思うであろうところだが、
- 0415 oar nekon ka a=kaskamuye he oray²³ ka somo ki kane
 全く何も私の憑神でも不安に思っている(?) 様子もないので
- 0416 a=tekrikikurpuni kane a=koonkami ne wa
 私は手を高く差し上げながら、その人にオンカミ(拝礼)して
- 0417 “tapne kamuy he tapne aynu he tapne payekay siri okay.
 「このようにカムイだか、人間だか、このように方々を歩て回っている様子です。
- 0418 hokure a=kor katkemat
 さあ、私の妻よ、

p.5

【原文翻刻】

shuke wa kamui katkemat ibere / yan ari itak an awa neap ene itak / i oshki oshki kotan koro Nishpa
 pon / no Aikoramkorobe an ruwe ne chise / koro katkemat shuke etokota ouse / iru kai nena shu shinep
 ierusa / wa ikore yan ari hawe anko akoro / katkemat shisembirun shikirpa / ko yainube biripa shiriki
 chiki / hokure iyotta pirika shu pirikano / huraiba wa kamui katkemat e / rusa yan ari itakan chiki
 neino / iyotta pirika shu Akoro katkemat / huraye a huraye Aine samaketa / ante a kusu ebitche

²¹ piro < pir-o は「傷がついている」という意味であり、piro citarpe と citarpe にかかった場合には「ポロポロの」といった意味になるであろうか。

²² poro sonapi / tambo ta / shirorke ta ashi 「大きな山盛りを こんどは 本横座に立てた」【ユーカラ集 7】 p.164。

²³ orayoray で「びくびくする」という意味があり(【萱野辞典】 p.184 など)、ここでも類似の意味ではないだろうか。ただし、重複せずに使用してそのような意味になっている用例は、管見の限り他に見当たらない。

ichakkere / menoko shino nubetne tura enepo / Aramu ai ne kusu nei shu oro wa / kka oi ne hoka atte
orowano orun / heturiri kane sabaha kiki kiki ker / keru shiru shiru nei korachi chima / kone wa ran
koro shiran shiriki chi- / ki sonno Aechakke shiuya uya an / kane Akoro katkemat ne yakka nei / no
iki kane orowano nea shu bop / shiri konna tattatche kane ukoboye

【現代表記・日本語訳】

- 0501 suke wa kamuy katkemat ipere yan”
料理をしてカムイなる淑女に食事をさせなさい」
- 0502 ari itak=an awa nea p ene itak h_i:
と私が言ったところ、その者は次のように言うことには――
- 0503 “oski oski²⁴ kotan kor nispa ponno a=ikoramkor pe an ruwe ne.
「待て待て、村長どの、少しお願いがあるのです。
- 0504 cise kor katkemat suke etoko ta ouse irukay ne na.
家の奥さんが煮炊きをする前に、ただ暫しのことですよ。
- 0505 su sinep i=erusa wa i=kore yan”
鍋を一つ私に貸してくださいな。」
- 0506 ari hawean ko a=kor katkemat sisempirun sikirpa ko
と言うと、私の妻は自分の後ろに振り向くと
- 0507 yaynu pe pirpa siriki ciki
考えを拭う(?) 様子をすると
- 0508 “hokure iyotta pirka su pirvano huraypa²⁵ wa kamuy katkemat erusa yan”
「さあ早く最も良い鍋をよく洗ってカムイの婦人に貸しなさい」
- 0509 ari itak=an ciki neno iyotta pirka su a=kor katkemat huraye a huraye ayne
と私が言う、そのように一番良い鍋を私の妻は何度も洗ったあげくに、
- 0510 samake ta ante a kusu epitce icakkere menoko sino nupetne tura
[その女性の] かたわらに置いたので、[その] 禿げた汚い女性はたいへん喜んで
- 0511 enepo a=ramu a h_i ne kusu ne su oro wakka o h_ine hoka atte
そのように私が思ったことなので、その鍋に水を入れて火にかけ、
- 0512 orowano or un heturiri kane sapaha kiki kiki kerkeri siru siru

²⁴ oski 「幌別 待つ」【方言辞典】 p.70。

²⁵ ここで単数形の huraye ではなく複数形の huraypa になっているということは、何度もよく洗うよ
うにという動作の繰り返しが含意されているのだろうか。次の行の a を用いた繰り返しの表現も参
照。

それからそこに頭を伸ばしながら、その頭を掻き掻きし、こすりこすりし、ごしごしし、

0513 ne h_i koraci cima ko ne wa ran kor siran siriki ciki

それとともにかさぶたが粉末になって、落ちている様子がすると

0514 sonno a=ecakke siuyauya=an²⁶ kane a=kor katkemat ne yakka neno iki kane

本当に私はそれを汚いと思い、何度も身をよじり、私の妻も同様にしながら

0515 orowano nea su pop siri konna tattatce²⁷ kane ukopoye kane

それからその鍋が沸く様子は、ぐらぐら煮立ちながら、[その女性は] それをよくかき混ぜながら、

p.6

【原文翻刻】

kane yapte wa Aibep kana tambe / kusu Akoro katkemat pirika / itanki repbish sapte wa ochike / otta are kane samaketa ante chi / ki shino nubetne hine iyotta / boro itanki shik kane heman / ta chima uko turirke ukotachi / tekbe resonabi kar wa iyotta boro / ike ochike otta ashi wa Ikoibuni / oribak kane Auina hine shikot / chaketa Aante Akoro katkemat / ne yakka kobuni kar Akoro / katkemat ne yakka uina wa / shikotchane eashi kar orowa ne / a ebitche menoko ebihi koonkami / wa egoro okai ewa inkaranko shino / kera an noine eshiri okai chiki / ene hetap ne Aechakke humi o / kai rokbe tane tane ae anke ae an / ke yainu An tambe kusu Ayai / keutum ka oshitchiure tane bak / no shukup an wa mat koro an / bakno nepka wemburi hika / somoki kuni Aramu nepka / kamui bak burika Aki somoki

【現代表記・日本語訳】

0601 yapte wa aipep²⁸ kana²⁹.

火からおろして食器を請う。

0602 tanpe kusu a=kor katkemat pirka itanki reppis³⁰ sapte wa

なので私の妻は、きれいなお椀を三つ出して

0603 ocike or_ ta are kane samake ta ante ciki

折敷に据えて [その女性の] 傍に置くと

0604 sino nupetne hine iyotta poro itanki sik kane

²⁶ 参考：uyanitara 「もぢもぢしている」【久保寺辞典稿】 p.366。

²⁷ tattatce 「(鍋の中のお湯などが) 沸騰してぼこぼこいう」【千歳辞典】 p.246。

²⁸ 「幌別 食器」【方言辞典】 p.116。

²⁹ kana 「(v) 願ふ、申出る、頼む」【久保寺辞典稿】 p.135。

³⁰ 「三つ」【ユーカラ集 1】 p.386。

- たいへん喜んで、一番大きいお椀を一杯に
- 0605 hemanta cima ukoturirke³¹ ukotaci tek pe
何かかさぶたを伸ばして混ぜこぜにした物で
- 0606 re sonapi kar wa iyotta poro h_ike ocike or_ ta asi wa i=koypuni.
三杯の高盛をよそって、一番大きいのを折敷に据えて私に差し出す。
- 0607 oripak kane a=uyna hine sikotcake ta a=ante.
かしまって私は受け取って、自分の前に私はそれを置く。
- 0608 a=kor katkemat ne yakka kopunikar.
[その女性は] 私の妻にも差し出す。
- 0609 a=kor katkemat ne yakka uyna wa sikotca ne easikar.
私の妻もそれを受け取って、自分の前に置く。
- 0610 orowa nea epitce menoko epihi koonkami wa e kor okay.
それからその頭の禿げた女性は、作った食べ物を拝礼（オンカミ）しながら食べている。
- 0611 e wa inkar=an ko sino keraan noyne e siri okay ciki
食べているのを私が見ると、たいへん美味しそうに食べている様子なので
- 0612 ene hetap ne a=ecakke humi okay rok pe
あんなにも私は汚いと思っていたのに
- 0613 tane tane a=e anke a=e anke yaynu=an.
もう今にも私はそれを食べてしまいそうに思う。
- 0614 tanpe kusu a=yaykewtumka-ositciwre³²
なので私は心を決めて
- 0615 <tane pakno sukup=an wa matkor=an pakno
〈今まで私は成長して、妻をとるまで
- 0616 nep ka wen purihi ka somo ki kuni a=ramu.
何か悪い振る舞いもしていないように私は思う。
- 0617 nep ka kamuy pak puri ka a=ki somo ki.

³¹ 【沙流辞典】 p.740 では turirke が自動詞とされているが、どうもここは他動詞として用いられているようだ。

³² yaykewtum-ositciwre 「【自動】心を決める、決心する」【沙流辞典】 p.853。【ユーカラ集】では a=eyaykewtum-ositciwre という形が複数例見つかる——例：aeyaikewtum / oshitciwre 「我がこころをおちつけて」【ユーカラ集 5】 p.272。kewtum の後ろに位置名詞の ka が現れる形は、a=yaykewtumka-oupekare という例が見える——ayaikewtumka-oubekare 「わたしみずからの心の上やっとまとめる」【ユーカラ集 1】 p.134。

何かカムイが罰する振る舞いも私はしていない。

p.7

【原文翻刻】

shike toko takne kunip Ainu / ne kusu hemanta ene katkoro / ruwe okai wa heru asuru Anu / rokbe
tane anakne enepo Ara / mu humi okairokbe Aikobuni / ruwe okai atbake wano kamui / obitta hosarba
kuni ne kamui / nishuk an wa Ananbe sonno chi / ma sonno ye munimbe ne yak / ne iyotta hoshki no
kamui hu / chi- irushka nankorobe nepne ya- / ka Aewa Aekot hene somo hene / kamui tomo
Aekokanu ari yainu / an kane yupke rampo Ayaikore / boro sonabi Auina hine Arikun / ruke Ara
unruke Acoonkami / Aebasui ebuni ni shine not / Aewa inu an ike somoka un / sui humash kuni Aramu
roki / tane bakno usai ne usai ne oka / i pirika ratash kep Ae koroka / ene kane kera pirikap Aeka /
eramishkare roki son no kera / ambe ne noi ne iramu an kane / senne ka iki an kuni aramu

【現代表記・日本語訳】

- 0701 sik etoko takne kuni p aynu ne kusu
目先が短いはずのものが人間であるから
- 0702 hemanta ene katkor ruwe okay wa heru asuru a=nu rok pe
何を、このようなことがあって、ただ噂だけを私は聞いたのであったが
- 0703 tane anakne enepo a=ramu humi okay rok pe a=i=kopuni ruwe okay³³.
今はこのように私が思う感じがした物を私は差し出されるのだろうか。
- 0704 atpake wano kamuy opitta hosarpa kuni ne kamuy nisuk=an wa an=an pe
初めからカムイが皆振り向いてもらうべく、私がカムイに呼びかけているのに
- 0705 sonno cima sonno ye³⁴ munin pe ne yakne
本当にかさぶたが、本当に膿が腐ったものであるなら、
- 0706 iyotta hoskino kamuy huci iruska nankor pe
一番最初に火の媼神が腹を立てるだろうに
- 0707 nep ne ya ka a=e wa a=ekot hene somo hene kamuy tomo a=ekokanu>
何であるのか私が食べてそれで死ぬのか死なないのか、カムイの意向を私は伺おう
- 0708 ari yaynu=an kane yupke rampo a=yaykore.
と私は考えながら、強い気持ちを私は自分に持たせる。
- 0709 poro sonapi a=uyna hine a=rikunruke a=raunruke a=coonkami.

³³ hemanta で始まった疑問文が、この okay で閉じられることになるのだろうか。

³⁴ 「言う」という動詞ではなく「膿」という名詞であることに阪口諒氏の教示により気づいた。

大きな高盛を私は受け取って、高く捧げ、低く捧げして拝礼（オンカミ）をする。

0710 a=epasuyepuni(?)³⁵ ni(?)³⁶ sine not a=e wa inu=an h_ike

私は箸を持ち上げて、一口私は食べてみると、

0711 somo ka un suy humas kuni a=ramu rok h_i

またそのような感じを受けることになるとは思わなかったのに

0712 tane pakno usayne usayne okay pirka rataskep a=e korka

今までさまざまな美味しい山菜（野菜）を私は食べたが、

0713 ene kane kerapirka p a=e ka eramiskare rok h_i

これほど味の好いものを食べたこともなかったほど

0714 sonno keraan pe ne noyne iramu=an kane

たいへん美味しいものであるように思われて、

0715 senne ka iki=an kuni a=ramu³⁷

まさか私がそんなことをするとは思わなかったのだが、

p.8

【原文翻刻】

Hemanta pirika aep rupne / nochi Auka eruki iki anchi- / ki Akoro katkemat ene hetap / ne kosambe
wen wa chish shiri / okai rokbe iki an shiri nukar / Aike yupke rampo yaikorba / re nea sonabi uina
hine ri / kunruke ra unruke koonkami / hine ponno ponno basui ebuni / wa e orowa shino keran humi
/ okunure noine katkoro kane ea / ea irukai neko Aebihi Aewa / okere kanna rui no Aitanki / Aturiri
kane hemanta neko / na reikoro kuni kamui ratash / kep ene kera pirika Aekatnu³⁸ / humi an naa
Aerusui na / kamui katkemat oribak an / koroka naa ponno iibere wa / ikore kunak ramu yan taban /
kera pirika kamui ratash / kep Ae orowa moshma Aep / tane kuran somo aerusui / noine yainu An ari
itakan / awa neap sonno nubetne kunip

³⁵ 金成マツによる同種の表現では pirka amam / apasuiebuni 「好い飯 我が箸でとりあげ」【ユーカラ集6】p.360 または、basui aebuni 「箸を我とりあげる」【ユーカラ集6】p.138 となっており（他に主語が3人称の basui ebuni が複数例見つかる）、pasuyepuni の前にさらに接頭辞 e-が入る必要がなさそうである。

³⁶ なぜここに ni が入るのが、よく分からない。

³⁷ 他の用例を見る限りでは、この後に a h_i または awa が入ることが想定されるようにも思われるが、そのまま次の hemanta から始まる内容へと移っている。ノートのページ末尾であったことが影響しているであろうか。

³⁸ 原ノートでは Aekutnu と書かれているように見える。

【現代表記・日本語訳】

- 0801 hemanta pirka aep rupne noci a=ukaeruki³⁹ iki=an ciki
何だか美味しい食べ物大きいけらを私は次々と飲み込むことをすると、
- 0802 a=kor katkemat ene hetapne kosampewen wa cis siri okay rok⁴⁰ pe
私の妻はこのようにまあ気持ち悪く思って泣いている様子であったのだが
- 0803 iki=an siri nukar ayke yupke rampo yaykorpore
私がする様子を見ると、強い心を何度も奮い起こし、
- 0804 nea sonapi uyna hine rikunruke raunruke koonkami hine
その高盛を手にとって、高く捧げ、低く捧げして拝礼（オンカミ）をして、
- 0805 ponno ponno pasuy epuni wa e orowa
少しずつ箸を持ち上げて食べると、
- 0806 sino keran humi okunure noyne katkor kane e a e a
とても美味しい味に驚いたような様子で、食べに食べて、
- 0807 irukay ne ko a=epihi a=e wa okere kanna ruyno a=itanki a=turiri kane
しばらくすると、私は自分の食べ物を食べ終え、再びまた私のお椀を差し出しながら
- 0808 hemanta nekona re kor kuni kamuy rataskep ene kerapirka a=ekatnu humi an.
何がどんな名があるべきカムイなる山菜が、こう美味しく私が好む味がするのでしょうか。
- 0809 naa a=e rusuy na.
まだ私は食べたいと思いますよ。
- 0810 kamuy katkemat oripak=an korka naa ponno i=ipere wa i=kore kunak ramu yan⁴¹.
カムイなる淑女よ、恐縮ですが、まだ少し私に食べさせて下さるよう、お考えください。

³⁹ otu nonsikay ore nonsikay ukaerukiu-ka-e 「(お互・の上・に、次から次へと引続いて), ruki (呑みこむ)「幾度も幾度も生唾を次から次へと呑みこんだ」 《ホロボツ》【人間篇】 p.264.

⁴⁰ ここでも妻の行為に対して複数が用いられている。

⁴¹ 金成マツは wa i=kore の後に kunak ramu yan と続けることがあるようで、例えば nepka aeshibimpap / okai chiki / sapte wa ikore / kunak ramu yan! 「何か身まかないのものが あるなら 出して下さい たのみますよ!」という例がある【ユーカラ集2】 p.75。この箇所では金田一京助は、「… ikore」と命令の語を発して、そのあとに“kunak ram yan!” 「～と・思・え!」は、やや奇異な慣用語。(命令の助詞 yan (複数) は一人に対して用いられているから丁寧形)、「どうかそうしてください」の意」と注釈をつけている (p.75)。同書の別の箇所でも、Moshiriechikchik / Kotanechikchik tura / utasaroshki wa / ukoiki kunak / ramu yan! 「モシレチクチク コタネチクチクと交互 (かたみ) に立って 相闘うと 思えよ!」とある箇所では、「ukoiki kunak ramu yan!は ukoiki! 「闘え!」という命令形を丁寧にする」と注をつけている【ユーカラ集2】 p.177。

- 0811 tapan kerapirka kamuy rataskep a=e orowa
この美味しいカムイなる山菜を私は食べてからは、
- 0812 mosma aep tanekuran somo a=e rusuy noyne yaynu=an”
他の食べ物 Tonight 私は食べたくならないだろうと思うのです」
- 0813 ari itak=an awa neap sonno nupetne kuni p
と私は話したところ、その者はたいそう喜ぶ

p.9

【原文翻刻】

konep ne kusu eramupo bashko / sanu kanna rui no raisona / bi ikobuni orowano Aokai ne / yakka Akoro katkemat neya- / kka shino nubetne an wa tu / mina itak remina itak Auwe- / suiba chiki ebitche menoko shi / no shino nubetneane bittano / uwe neusar anko kamui oru- / shbe batek eiso itak kane hine / harki sotta Akor katkemat / pirika sotki kar wa Ahotkere / Akoro katkemat batek makta / hotke Aokai anak ne abetek⁴² sam / ta hotke an seenne kasui moko- / r. Ankuni aramu rokwa hotke / an i nani pirika mokoro Aan / noye kar ierup shiketa nea ebit / che menoko tambo ta ebitche ka / somoki no kamui otobi ekimui / kashi chiusure (chiusure?) kani kosonte a- / rutome chiu sancha otta mina / kane Ihekota shikirba chiki ta / ne eashiri kamuine kusu kamui / ibor annoye kar ene itak i inkar

【現代表記・日本語訳】

- 0901 kone p ne kusu eramupo-paskosanu⁴³ kanna ruyno ray sonapi i=kopuni orowano
ので、その心がぱっと喜び、またもう一度高盛の飯を私に差し出し、それから
- 0902 aokay ne yakka a=kor katkemat ne yakka sino nupetne=an wa
私も私の妻もたいそう喜んで、
- 0903 tu mina itak re mina itak a=uesuypa⁴⁴ ciki
二つの笑い言葉、三つの笑い言葉を私たちは楽しむと、
- 0904 epitce menoko sino sino nupetne an=epittano uenewsar=an ko

⁴² ノートには先に ne betek と書かれ、後から b の左上に小さく a と書き加えられている。

⁴³ Erampopash-kosanu 「喜ぶ. v.i. To be pleased. To feel rejoiced」【バチラー辞典】 p.126 ; eramupo pashkosanu 「その心すぐに和ぐ」【久保寺辞典稿】 p.70。

⁴⁴ 管見では、tu mina itak re mina itak の後は a=ki kane や a=utasare (i=utasare) (または utaspere) という動詞が来る事が多く、a=uesuypa は an=ramasu a=uesuypa という常套表現以外では用例が見つからない。uesuye / uesuypa は「心が楽しい」という意味に解釈されることが多いが、ここでは互いに言葉を相手にかけているはずなので、例えば ukoterkere に近い意味で用いられているのだろうか (後ろにあるノート p.11 の kosuye も同様)。

- 頭の禿げた女性は、とてもとても喜び、私たちは皆で四方山話をしあうと
- 0905 kamuy oruspe patek eisoytak kane hine
[頭の禿げた女性は] カムイの話ばかりを語りながらいて
- 0906 harkisotta a=kor katkemt pirka sotki kar wa a=hotkere.
左座に私の妻は良い寝床を作って [その女性を] 寝かせる。
- 0907 a=kor katkemat patek mak ta hotke, aokay anakne ape teksam ta hotke=an.
私の妻だけが奥の方に寝て、私は炉端で横になる。
- 0908 seenne ka suy mokor=an kuni a=ramu rok wa hotke=an h_i
よもやまた私は眠ってしまうだろうとは思わなかったことに、横になると
- 0909 nani pirka mokor a=annoyekar⁴⁵
すぐにぐっすりと私は眠ってしまう。
- 0910 i=erupsike ta nea epitce menoko tampota epitce ka somo ki no
私の枕上には、あの頭の禿げた女性が、今回は頭が禿げてもないで
- 0911 kamuy otopi ekimuykasi-ciusurure, kani kosonte arutomeciw,
カムイなる [美しい] 頭髪が頭の上を蔽って、金の小袖を重ね着し、
- 0912 sanca or_ ta mina kane i=hekota sikirpa ciki
口元に笑みを浮かべながら、私に向かって向き直ると
- 0913 tane easir kamuy ne kusu kamuy ipor annoyekar ene itak h_i:
今や本当にカムイであるから、カムイの顔色をまとめてこのように言う――

p.10

【原文翻刻】

kusu urashbetun kuru kotan / koro Nishpa itakan chiki inu / yan sonno hetap ne eboso kusu / Ainu bawe tok kamui otta ka e / ika umbe ne yak aye awa kamui / shikoinkarep ene kusu pirika / rusuibe ene a kusu ewayashnu / kusu Aharuhu hoshki no Ee / tambe kusu tane anakne kamui / orun rikin an eashkai ruwe ne / ambe tap ne nep ne yakka / tonoho sabanep okaibe ne kusu / Aokai anakne turep ari aborsep / mun haru tono mat sabanep / Ane wa Autari Ashikkashima / wa Ainu moshiri moshiriso / kashi Achorari wa Anan ru / we ne hushokoti ta kotan kar / kamui kotan kar okere orowa / Ainu utar

⁴⁵ この表現は、pirka mokor i=annoyekar という表現も、pirka mokor a=annoyekar という表現もあり、「よき眠り」に対して主人公が主語の位置にも目的語の位置にも入れることができる。noyekar は noye 「ねじる」が元になっていると考えられ、【人間篇】はこれを「からみつく」と解釈しているが、そうすると眠りと眠りに入る人が絡み合うようにして眠りに入っていくということだろうか。

hemem kar okere / orowa nep toi haru hene mun / haru hene nikaop ratashkep / hene kimun iwor
iworso kurka / ekar kar Ainu bito utara eu / bar oiki kunine Atui otta hene

【現代表記・日本語訳】

- 1001 “inkar kusu, Uraspet un kur kotan kor nispa, itak=an ciki inu yan.
さてさて、ウラシベツの男の村長のお方、私が話しますから聞いてください。
- 1002 sonno he tapne, eposo kusu aynu pawetok kamuy or_ ta ka eikaun pe ne yak a=ye awa
本当にまあなるほど人間の雄弁な者はカムイのくににでも勝る者だと言われていましたが、
- 1003 kamuy sikoinkare p e=ne kusu
カムイの加護を受ける者であなたはありますから、
- 1004 pirka rusuy pe⁴⁶ e=ne a kusu
良い暮らしをしたいと思う者であなたはありましたから (?)
- 1005 e=wayasnu kusu a=haruhu hoskino e=e.
あなたは利口ですから、私の食糧を真っ先にあなたが食べました。
- 1006 tanpe kusu tane anakne kamuy or un rikin=an⁴⁷ easkay ruwe ne.
なので、今はカムイのくにへと私は上ることができるのです。
- 1007 anpe tapne nep ne yakka tonoho sapa ne p okay pe ne kusu
実はこのように、何にでもその首領（トノ）で、頭領である者がいるものですので、
- 1008 aokay anakne turep ari a=porse p mun haru tono mat sapa ne p a=ne wa
私はトゥレブ（オオウバユリ）と呼ばれるもの、山菜の首領の女性頭で私はあって、
- 1009 a=utari a=sikkasma wa aynu mosir mosir so kasi a=ehorari wa an=an ruwe ne.
同胞たちを私は見守って、人間のくに、くにの上手に私は住んでいるのです。
- 1010 huskotoy ta kotan kar kamuy kotan kar okere
大昔に、村造りのカムイが村を造り終わり、
- 1011 orowa aynu utar hemem kar okere orowa
そして、人間たちのことも造り終わり、そして
- 1012 nep toy haru hene mun haru hene nikaop rataskep⁴⁸ hene

⁴⁶ 意味不詳。ノートには確かにこのように書いてあるように見えるのだが、pirka rusuy pe が実際に何を意味するのが判然としない。

⁴⁷ この物語では、すぐ後ろでこのカムイは自分が aynu mosir, mosir so kasi に住んでいると述べており、ここでは、そこへと戻るために「上がっていく」ということになるのだろう。

⁴⁸ ここでは、mun haru も rataskep もともに「山菜」と訳されることが多い語であるが、それが同じ箇所使われているのは珍しい。mun haru は toy haru と対句として用いられていると考えると、rataskep は nikaop と対を成して用いられているのであろうか。

何の畑の食糧でも食べられる草でも、木の実や山菜でも

- 1013 kimun iwor iworso kurka ekarkar
山の猟場、猟場の上の一带に幾つも作り
- 1014 aynu pito utar euparoyki kuni ne atuy or_ ta hene
人間たちがそれで皆が口を養うように、海においても

p.11

【原文翻刻】

bet otta hene kimta chikoikip / hene Ainu bito utaror ke eubar / oiki kunip nepne yakka kotan / Aekarkar ruwe ne wa neino / Ainu bito utar chikoikip otta he / ne ratashkep otta hene boronno / eubar oiki ruwe ne koroka iyotta / ibe ikkeu ne haru ikkeu ne / turep Ane awa Ainu bito utar / orke turep ari ayep erambetek / ene akar wa aep neika eram / betek tambe kusu otu keshba / ta orekeshpa ta boronno moshiri / ebitta no turep sarihi hetuk / ba yakka nenka somo tano toiko / munin wa isam ranke tambe / kusu turep tonomap(?) ane wa ene / ene turep akar wa haru akar / kuni i Ainu bito utar Aebakash / nu rusui kusu pon ikoramnu / kar Aki kusu Ainu moshiri / iwor soka wa sanan wa Aharu / irup Asuye wa kotan kon nishpa / utar Aereko kosambe rui kashi / ke un arwen itak Aikosuye irush

【現代表記・日本語訳】

- 1101 pet or_ ta hene kim ta cikoykip hene
川においても、山での獲物でも
- 1102 aynu pito utarorke euparoyki kuni p nep ne yakka kotan a=ekarkar ruwe ne wa
人間たちがそれで口を養えるような物を、何でも村に色々と作られるのであって、
- 1103 neno aynu pito utar cikoykip or_ ta hene rataskep or_ ta hene
そのように人間たちは動物においてでも山菜においてでも
- 1104 poronno euparoyki ruwe ne korka
たくさんそれで皆の口を養うのですが、
- 1105 iyotta ipe ikkew ne haru ikkew ne turep a=ne awa
最も食物の中心で、食糧の中心であるトゥレプ（オオウバユリ）で私はあったのですが、
- 1106 aynu pito utarorke turep ari a=ye p erampetek, ene a=kar wa a=e p ne h_i ka erampetek.
人間たちはトゥレプと呼ぶ物を知らず、どのように作って食べる物なのかも知りません。
- 1107 tanpe kusu otu kes pa ta ore kes pa ta⁴⁹

⁴⁹ 「毎年」と言うには kes pa an kor という言い方が多く見られる。kes pa kes pa という表現はこの物語の類話において 1 例見え（【知里真志保ノート 4】 p.338）、ここで用いられている otu / ore と組

このために二つの毎年、三つの毎年 [=毎年毎年ずっと]、

- 1108 poronno mosir epittano turep sarihi hetukpa yakka
たくさん国中にオオウバユリの原が育っても
- 1109 nen ka somo ta no toykomunin wa isam ranke.
誰も収穫せずに腐り果ててしまっただけあります。
- 1110 tanpe kusu turep tonomat a=ne wa
なので、トゥレブ（オオウバユリ）の首領の女性で私はありまして、
- 1111 ene ene turep a=kar wa haru a=kar⁵⁰ kuni h_i aynu pito utar a=epakasnu rusuy kusu
こうこのようにトゥレブを収穫して食糧を作るべきことを、人間たちに私は教えたいので
- 1112 pon ikoramnukar a=ki kusu aynu mosir iwor so ka wa san=an wa
ちょっと人々を試そうとして、人間のくのにの猟場の上から私は山を下りてきて
- 1113 a=haru irup a=suye wa kotan kor_nispa utar a=ere ko
私の食糧の [=トゥレブの] デンプンを煮て、村長たちに私は食べさせると、
- 1114 kosamperuy kasike un arwenitak a=i=kosuye
[村長たちは] ひどく気分を害し、その上にたいそう痛烈な言葉を私に投げかけ、

p.12

【原文翻刻】

ka an tambe kusu Ashimbe / uk an koro ek an aine eotta / ek an ruwe ne awa Ahun an / i wano shino
rayai ke inkar / tu pirika itak re pirika itak / eiye kar kar naa kashike un / Aharuhu keran manu eiha-
pse kar kane umurek echine / wa echie shiri sonno Aeyai rai / ke kusu ene ene Autari akar / wa irup
nei hene on turep ne / i hene tane kuran obitta no / eko katkemat tarap ari ae / bakashnu kusu ne
ruwe ne / ene ene Aharu akar wa Aeku / ni echie raman chiki ainu kotan / tanne yakka takne yakka /
moshiripa bakno moshiri kesh / bakno echi utari Ainu bito utar / obittano echie bakashnu wa eiko / re
kusu ne ruwe taban yak a / nak ne inne matainu turep / haru kar wa ne yakne inan / hembara Ainu
moshiri kem / ush yakka turep haru ari

【現代表記・日本語訳】

1201 iruska=an. tanpe kusu asinpeuk=an kor ek=an ayne

み合わせた表現は、管見の限り幌別の記録には今のところ見つからず、沙流の例で【白老アーカイブ】に1例見える——「川上まつ子さんの民話(ア) おばあちゃんとヤマブドウ (1987)」130行目。

⁵⁰ この haru kar とは、オオウバユリを収穫した後に、粉にしたり団子にしたりして、保存できる食糧に加工することを指しているのであろう。

- 私は腹が立つのです。なので、償いの品を私は取りながら来たあげくに、
- 1202 e=or_ ta ek=an ruwe ne awa ahun=an h_i wano sino rayayke inkar⁵¹
あなたのところまで来たのですが、中に入ったときから、とても穏やかな目線(?)と、
- 1203 tu pirka itak re pirka itak e=i=ekarkar.
二つのよき言葉、三つのよき言葉をあなたは私にかけてくれます。
- 1204 naa kasike un a=haruhu keran manu e=i=hapsekar⁵² kane
さらにその上に、私の食糧を美味しいと感謝してくれて、
- 1205 umurek eci=ne wa eci=e siri sonno a=eyairayke kusu
あなたたちが夫婦で食べる様子にとっても私は感謝しますので、
- 1206 ene ene a=utari a=kar wa
これこのように私の同胞たち [オオウバユリたち] を人が収穫して、
- 1207 irup ne h_i hene ontuprep ne h_i hene
[それが] デンプンになることでも、発酵デンプンになることでも
- 1208 tanekuran opittano e=kor katkemat tarap ari a=epakasnu kusu ne ruwe ne.
今夜すべてをあなたの妻に夢で私は教えるつもりなのですよ。
- 1209 ene ene a=haru a=kar wa a=e kuni eci=eraman ciki
こうこのように私の食糧を人が収穫して食べるべきことをあなたたちが分ってくれたら、
- 1210 aynu kotan tanne yakka takne yakka⁵³ mosir pa pakno mosir kes pakno
[そのことを] 人間の村が長くとも短くとも、くのにの上手まで、くのにの下手まで
- 1211 eci=utari aynu pito utar opittano eci=epakasnu wa e=i=kore kusu ne ruwe tapan.
あなたがたが人間たちに全て教えてあげるのですよ。

⁵¹ この箇所が意味不詳。【ユーカラシリーズ 20】には shiktum konna / rayaike kane okai 「目の芯が穏やかになった」(p.35)、【ユーカラシリーズ 66】には shikboki ka / rayaike kane 「(不詳) 穏やかに」という例があるが (p.124)、これらと同種の表現であろうか。

⁵² hapse で hap 「ありがとう」と言う、という意味になると考えられる。hapse で自動詞のはずなので、他動詞形成の接尾辞-kar がつき hapsekar となって他動詞になり、「誰々に感謝する」という意味になるのだろうか。

⁵³ この表現の tanne と takne が、何が「長く」何が「短い」のかが問題になるが、これは村の大きさ(広がり)の規模を指しているのであろうか。この表現は、kotan や mosir について使われることもあれば、rorunpe 「いくさ」についても使われることがある。mosir について使われる場合の例—e=kor mosir takne yakka tanne yakka 【知里真志保フィールドノート 5】 p.97。rorunpe について使われる場合の例—tan rorunpe / tanne yakka / takne yakka 「このいくさ 長くとも 短くとも」【ユーカラ集 3】 p.152。

- 1212 yak anakne inne mat aynu turep haru kar wa ne yakne
 そうすれば、大勢の人間の女性がオオウバユリの食糧を作れば、
- 1213 inan hembra aynu mosir kemus yakka turep haru ari
 いつ何時人間のくになが飢饉になっても、オオウバユリの食糧でもって

p.13

【原文翻刻】

Moshiri hebuni kotan hebu / ni ki kusu nena tabanik kewe / Eeraman yakne eteke wano kamui / orun kanto orun rikin an kusu / ne nisatta otta ehobuni chiki / turep ari Ayep enukar nan / koro Inau san bane Ieyashi / yakne rikin an kuni eyewa / eikore yakne nubetne no kamui / orun rikin an kusu ne kamui / huchi hene Aharuhu ewa sonno / nubetne ikobuntek ruwe ne / tambe obitta pirika keutum / wayashnu keutum ekor wa / kusu pirika kunine eashi / nusa nusa tapkawa kamui / kotan Aerikin eash kai kusu / shino ekoyai raike Aki kusu / ukopo sak uko nishmu utar / echine a yakka Arenkaine / ambe ne kusu boronno echi uko / pokoro kusu ne ruwe taban / na tambe poka pon yayatta / sa ne Aki ruwe taban orowa / turep ari aborsep echi nukar

【現代表記・日本語訳】

- 1301 mosir hepuni kotan hepuni ki kusu ne na.
 くになが復興し、村が復興するでしょう。
- 1302 tapan ikkewe⁵⁴ e=eraman yakne
 この意図をあなたが分って下されば、
- 1303 e=teke wano kamuy or un kanto or un rikin=an kusu ne.
 あなたの手からカムイのくにへ、天へ私は上りましょう。
- 1304 nisatta or_ ta e=hopuni ciki turep ari a=ye p e=nukar nankor.
 明日にあなたが起きたら、トゥレブというものをあなたは見るでしょう。
- 1305 inawsan pa ne i=easi yakne rikin=an kuni e=ye wa e=i=kore yakne
 幣棚の上手に私を立てたら、私が [天に] 上れるようにあなたが言うてくだされば、
- 1306 nupetneno kamuy or un rikin=an kusu ne.
 喜びとともにカムイのくにへ私は上りましょう。
- 1307 kamuy huci hene a=haruhu e wa sonno nupetne i=kopuntek ruwe ne.
 カムイなる媪（火のカムイ）も私の食糧を食べて、本当に喜んで、私を褒めるのです。

⁵⁴ ここでの ikkewe が、いま話していることの「眼目」であるのか、haru ikkewe のことであるのか、解釈に二通りの可能性があるかもしれない。ここでは前者として解釈している。

- 1308 tanpe opitta pirka, pirka kewtum wayasnu kewtum e=kor wa kusu
今は全てがうまくいき、よき心、賢明な心をあなたは持っているので、
- 1309 pirka kuni ne e=asi nusa, nusa tapka wa kamuy kotan a=erikin easkay kusu
しかるべくあなたが立てる幣、幣の上からカムイの村へ私は上れますので、
- 1310 sino e=koyairayke a=ki kusu ukoposak ukonismu utar eci=ne a yakka
とてもあなたに感謝を私はしているので、あなたたちは子どもがなく寂しかったですが、
- 1311 a=renkayne an pe ne kusu poronno eci=ukopokor kusu ne ruwe tapan na.
私の意向があるのだから、たくさんあなたたちは子どもを授かることになるのですよ。
- 1312 tanpe poka pon yayattasa ne a=ki ruwe tapan.
そればかりを、ささやかな返礼として私はしますよ。
- 1313 orowa turep ari a=porse p eci=nukar wa
それから、トゥレブ（オオウバユリ）と呼ぶものをあなたたちが見て

p.14

【原文翻刻】

wa tane anak ne echi eraman / ruwe ne kusu kimta echiba / ye wa echi inkar ko anak ne / echi koro
iwor iworso kurka boro- / nno boronno turep sarihi okai / ruwe taban kanto otta Anan / yakka keshba
anko turep haru / A pirikare yakne boronno piri- / ka haru echikar wa haru ikkeu / ne ibe ikkeu ne
echikoro wa echie / echi eyaiyupke kusu neruwe / tabanna yak anakne Aokai / ne yakka kamui otta
shino nu / betne an kusu ne ruwe taban / ari kamui menoko itak bokor / yainu an ko Ashike toko chup
/ ko sanu yaishi karun an wa / shiarso un inkaran awa ouse / tarap hetap ne Aki humi ne / kunak Aramu
awa ene okai / mun boronno Akor iwor kenash / so kurka rupne toye keshpa / anko sarihi neita bakno
chi / u chiu bare ranke yakka tane / bakno Aep ne ruwe neya somone

【現代表記・日本語訳】

- 1401 tane anakne eci=eraman ruwe ne kusu
今はあなたたちが [それがオオウバユリだと] 分かるのだから
- 1402 kim ta eci=paye wa eci=inkar ko anakne⁵⁵
山へあなたたちが行って見るならば、

⁵⁵ ko anakne を金田一京助は基本的に仮定として解釈しているようだ。例として Tewano to-an / shine shitu / eekari ko anakne 「ここからあの 一つの尾根を お身が回るならば」【ユーカラ集 1】 p.301。他に強調の意味で訳している場合もあるが（【ユーカラ集 2】 p.134 など）、これらの場合においても仮定であると解釈することができそうだ。

- 1403 eci=kor iwor, iworso kurka poronno poronno turep sarihi okay ruwe tapan.
あなたたちの狩場、狩場一帯に、たくさんたくさんオオウバユリ原があるのです。
- 1404 kanto or_ ta an=an yakka kes pa an ko turep haru a=pirkare yakne
天に私はいても、毎年オオウバユリの食糧がよくできるように私はしますので、
- 1405 poronno pirka haru eci=kar wa
たくさん良い食糧をあなたたちは収穫して、
- 1406 haru ikkew ne ipe ikkew ne eci=kor wa eci=e
[それを] 食糧の中心、食べ物を中心としてあなたたちは持って、食べ、
- 1407 eci=eyayyupke kusu ne ruwe tapan na.
それで自身の力をつけることになるのですよ。
- 1408 yak anakne aokay ne yakka kamuy or_ ta sino nupetne=an kusu ne ruwe tapan”
そうしたら私もカムイのくにで、とても喜ぶことになりましょう」
- 1409 ari kamuy menoko itak pokor yaynu=an ko
とカムイの女性が話すように私は思うと、
- 1410 a=siketoko cupkosanu yaysikarun=an wa siarso un inkar=an awa
私の目の前がさっと塞がり、目が覚めて、自分の反対側の座へ目をやったところ、
- 1411 ouse tarap hetap ne a=ki humi ne kunak a=ramu awa
ただ夢にばかり私は見る感じだと思っていたのだが、
- 1412 ene okay mun poronno a=kor iwor kenasso kurka
そのような草がたくさん、私の猟場の木原の上に、
- 1413 rupne toye kes pa an ko sarihi ney ta pakno ciwciwpare⁵⁶ ranke yakka
その大きな畑が、毎年になるとその原がどこまでも連なっていたが、
- 1414 tane pakno aep ne ruwe ne ya somo ne ya
今まで食べ物であるのか、そうでないのか、

p.15

【原文翻刻】

ya ponnoka Aerambeutek ruwe / nerok okai nea pirika retar kina / sotki noshkita boro turep sep / hamuhu eebirashke kane / roshki kane shiran shino iyo / kunure an Akoro katkemat / neyakka matkosanu oshser / ke haukan kari kane sonno / hetap sonno hetap oroyachi / ki pirika ratashkep

⁵⁶ 「ならび列る」【久保寺辞典稿】 p.50（見出しに chiuchiupere とあるのは誤植か）； Chiuchiubare 「散ラサレル. v.i. To be scattered about」【バチラー辞典】 p.93。

kamui / turep ari ayep ene hetapne / kera pirika p Ainu moshiri / Akokarkarko ene akarwa aep / neika tane tabakno Aerambe / tek wa ikoram karan bakno ou / se chakke batek ishitoma batek / Aki kamui shiko irushkare a- / ki kusu chish bakno iki an a / wa tarap hetap ne Aki humi / okai ari itak kane shietu ui / na shibar uina kane tun ane / wa sonno iyo kunnure an kane / turep kamui inausanbane / Aeashi tap orowa neia boro bake / omap Abita wa inkar an awa

【現代表記・日本語訳】

- 1501 ponno ka a=erampewtek ne rokokay
少しも私は分からずにいたのであった
- 1502 nea pirka retar kina sotki noski ta
その美しい白い草が、寝床の中央で
- 1503 poro turep sep hamuhu eepiraske kane roski kane siran.
大きなオオウバユリが幅の広い葉を広げながら立っている様子だ。
- 1504 sino iyokunure=an, a=kor katkemat ne yakka matkosanu
私はひどく驚き、私の妻も飛び起き、
- 1505 osserke hawkan kari kane
たまげた声が聞こえてきながら、
- 1506 “sonno he tap sonno he tap oroyaciki pirka rataskep kamuy turep ari a=ye p
「本当に本当に驚いたことに、良い野草のカムイなるトゥレブというもの
- 1507 ene hetap ne kerapirka p aynu mosir a=kokarkar⁵⁷ ko
このようにも味の好いものを人間のくいで育てると
- 1508 ene a=kar wa aep ne h_i ka tane ta pakno a=erampetek wa
このように収穫して食べ物になることも、今の今まで私は知らなくて
- 1509 ikoramkar=an⁵⁸ pakno ouse cakke patek isitoma patek a=ki
人を怒らせてしまうほど、ただ汚がるばかり、怖がるばかりを私はして、
- 1510 kamuy sikoiruskare a=ki kusu cis pakno iki=an awa
カムイの怒りを招くことを私はしたため、泣きたいほどであったのですが、

⁵⁷ kar-kar 「v I (1) 世話をする、育てる、取り扱ふ、する」【久保寺辞典稿】p.138。

⁵⁸ ramukar 「嘲弄スル、困ラセル、ジラス。v.t. To poke fun at. To make angry. To tease. To annoy. To make cry. Syn : Iramkara」【バチラー辞典】p.410。ここでは、充当接頭辞 ko-をとり、その前に接頭辞 i-をその目的語としてとっているので、ramkar は自動詞として用いられているようだ。冒頭の i-は、4 人称の人称接辞ではなく（つまり主人公の妻自身を目的語とするのではなく）、一般的に「人、もの」を意味する接頭辞だととっている。

- 1511 tarap hetap ne a=ki humi okay”
夢を見ていたということなのですね」
- 1512 ari itak kane sietuuyna⁵⁹ siparuyna kane
と言いながら、自分の鼻を押さえ、自分の口を押さえししながら、
- 1513 tun a=ne wa sonno iyokunnure=an kane turep kamuy inawsan pa ne⁶⁰ a=easi
私たちは二人で本当に驚きながら、オオウバユリのカムイを幣棚の上手に私は立て、
- 1514 tap orowa nea poro pakeomap⁶¹ a=pita wa inkar=an awa
それからその大きな籠を私はほどいてみると

p.16

【原文翻刻】

tane eashiri oshke makke / makke kamui korobe sonno / ikoro sokkar ne noine okaibe / konkani tannep shirokani / tannep shirokani seppa kon / kani seppa kani tumwa / abusu apkoro okaibe boronno / boronno urutkoboye kane / eshik kane shiran chiki iyo / ikiri kotcha Aeante kar tap / orowa Akoro katkemat akoor / sutke wa sake kar an tap / orowa tane bakno turep tono / mat oro kush wa ek kotan / obittano shino bawetok Aui / tek wa urashbet un kotan / koro kuru Ane wa tane shino / tunashno tunashno aye rusui / be okai ruwe ne kusu oribak / tura iki a yakka usa shit / tuima kusu shino iram nu / kuri an ruwe ne koroka ram / ma kanto orowano kamui / orowano ran base orushbe A / ye wa nishpa utar Anure

【現代表記・日本語訳】

- 1601 tane easir oske makke makke⁶² kamuykorpe sonno ikor sokkar ne noyne okay pe
さて本当に中がピカピカと光り、宝物が本当に宝の敷物のようになってある物が
- 1602 konkani tannep sirokani tannep sirokani seppa konkani seppa
金の太刀、銀の太刀、銀の鍔、金の鍔、
- 1603 kani tum wa a=pusu apkor okay pe⁶³
黄金の中から掘り出したような物が、

⁵⁹ これは驚いたときに行う動作である。

⁶⁰ 後ろの easi の e-が場所の目的語をとるので、ここの ne が必要ないようにも思えるが、少し上にも同じような例があった。

⁶¹ nea 「その」という指示語がついてはいるが、この籠については、夢の中でも夢から覚めた後でも、これまで言及されていないようだ。

⁶² makke 「光る =mike」【久保寺辞典稿】 p.177。

⁶³ kani tum wa / abusu apkoro / kamui nupe / maknatara 「黄金の中から 掘り出したような 神光明るくかがやき」【ユーカラ集 3】 p.433。

- 1604 poronno poronno urutkopoye⁶⁴ kane esik kane siran ciki iyoykir kotca a=eantekar.
たくさんたくさん打ち交じり、一杯になっている様子で、宝壇の前に私は据え置く。
- 1605 tap orowa a=kor katkemat a=koorsutke wa sakekar=an.
さてそれから、私の妻を励まして、酒をつくる。
- 1606 tap orowa tane pakno turep tonomat oro kus wa ek kotan opitta
そしてそれから、今までオオウバユリの首領の女性が通ってきた全ての村へ
- 1607 sino pawetok a=uytek wa
本当に雄弁な者を私は使いに出して、
- 1608 “Uraspet un kotan kor kur a=ne wa
「ウラシペツの村長で私はあって、
- 1609 tane sino tunasno tunasno a=ye rusuy pe okay ruwe ne kusu
今ほんとうに早く早く私が言いたいことがあるので、
- 1610 oripak tura iki a yakka usa sittuyima kusu sino iramnukuri=an ruwe ne korka
慎重ながらしたのですが、それぞれ遠いので申し訳なく思うのですが、
- 1611 ramma kanto orowano kamuy orowano ran pase oruspe⁶⁵ a=ye wa
常に天からカムイ [のくに] から下りてくる重大な話を私は言って

p.17

【原文翻刻】

kusu nena nohankeno Ikoshi / repa wa ikore yan Nishpa / utar kor katkemat turan no / Atak orowano
Autari uwekarpa / wa usa inumba usa inauke / Aumonbok tush mak kane / Akoro katkemat usa shito
kar / pirika shuke ki kane tane / iku an kunine etoko Aoiki / okere kane rabokita tuima / Nishpa hanke
Nishpa Aun / chise koshirepa eashirika shi / no Nishpa shino katkemat / uwe karba konep orushbe an
/ hawe nenan kora ari inne / Nishpa utar katkemat uta / r yainup ne kusu obitta no / shino yaiko
uyebeker kotom / no okai orowano iku eshiyuk / an kamui shiri ne Anan wa / rorunsopata Aan kane
unu / kar itak aye kane rankarap / itak Aki ikir keseta Aki / charanke kakkok hau ne ou / se turse tapne
tap ne turep ne

【現代表記・日本語訳】

- 1701 nispā utar a=nure kusu ne na. nohankeno⁶⁶ i=kosirepa wa i=kore yan”

⁶⁴ urutkopoye 「打ち交ざる、参差として交る」【久保寺辞典稿】 p.359。

⁶⁵ pase oruspe 「この重大事」【虎杖丸別伝】 p.353 (1930 行目)。

⁶⁶ 「よく近く来いとはそう遠方なわけでもないんだ近いんだから来た、と言って来てくれ。この言

- 長者たちに聞かせましょうぞ。どうか近いを幸いとして私のところまで来てください」
- 1702 nispa utar kor katkemat turanno a=tak.
 (と) 長者たちをその妻とともに私は招待する。
- 1703 orowano a=utari uekarpa wa usa inumpa usa inawke a=umonpokusmak⁶⁷ kane
 それから私の村人たちが集まって、酒漉しやイナウ削りで互いの手元を競って、
- 1704 a=kor katkemat usa sito kar pirka suke ki kane
 私の妻はシト (団子) を作ったり、美味しい煮炊きをしたりして、
- 1705 tane iku=an kuni ne etoko a=oyki okere kane
 今や酒宴をするための準備を終えて、
- 1706 rapoki ta tuyma nispa hanke nispa a=un cise kosirepa.
 その間に遠くの長者も近くの長者も私の家に到着する。
- 1707 easir ka sino nispa sino katkemat uekarpa
 それこそ真の長者、真の淑女が集まり、
- 1708 <konep oruspe an hawe ne nankor y_a?>
 〈一体何の話があるというのだろうか〉
- 1709 ari inne nispa utar katkemat utar yaynu p ne kusu
 と大勢の長者たち淑女たちが思うものだから、
- 1710 opittano sino yaykouepeker kotomno okay.
 皆がとても心配しているようである。
- 1711 orowano ikuesiyuk=an kamuy siri ne an=an wa
 それから私は酒席の装いをし、カムイなる様子でいて、
- 1712 rorunso pa ta a=an kane unukar itak⁶⁸ a=ye kane rankarap itak a=ki
 横座の上手に私は座って、会見の辞を私は言って、挨拶の言葉を言い、
- 1713 ikirkese ta⁶⁹ a=ki caranke kakkok haw ne owse turse
 最後に私がするチャランケ (談判は) カッコウの声のように真っ直ぐに飛んで、

い方、われわれの遠路を遠しとせずに来て下さってありがたいの反対。遠くても、どうか近いから来たと言って来てくれと」【ユーカラ集 3】 p.206。

⁶⁷ 参考—eyai-monpokkor tushmak 「己が手元を急ぎ競ふ」【久保寺辞典稿】 p.342、p.79 も参照；【銀の柳林】 p.124。

⁶⁸ unukaritam は【沙流辞典】では「面と向かって言う言葉 (=口頭会話語)」とされているが (p.774)、金成マツがこの単語を使う場合は、どうも韻文で正式に述べる言葉を指して言っているようだ。

⁶⁹ ikirkese ta 「最後に」【ユーカラ集 6】 p.349。

1714 tapne tapne turep ne
これこのようにオオウバユリである

p.18

【原文翻刻】

turep tono mat hawe An / i obitta no pirikano Aye / wa nishpa utar hene Au / tari utar hene inne
katkemat / utara Anure Nishpa utara katkemat / utar inurokbe shino shino homat / bap ne kusu shietu
uina shibar / uina ukoijo kunnurepa sonno / sonno oroya chiki turep kamui / nerok okaibe Ikoram
nukar kusu / kotan kosap ruwe ene mashkino / ichak kere kashba tambe kusu / heru Ainu ane kusu
ouse Aechak / ke batek ki awa ene hawash i taan / eboso kusu husko toi wano asu / ru ashbe urashbet
un kuru kotan / koro Nishpa utar ne kusu naa / Uokkata kamui ubashkuma / eraman usa bawe tok
koro kusu / kamui koin kar hawe irayap / ka okai sonno urashbet unkur / kotan koro nishpa an
kushkerai / po pirika turep ratashkep tante / wano neita bakno Asan Nitpo u- / tar naa naa usantek kata
ureshba

【現代表記・日本語訳】

- 1801 turep tonomat hawean h_i opittano pirkano a=ye wa
オオウバユリの首領の女性が話したことを、良く私は言って
- 1802 nispa utar hene a=utari utar hene inne katkemat utar a=nure
長者たちや、私の村人たちや、大勢いる淑女たちに私は聞かせ、
- 1803 nispa utar katkemat utar inu rok pe
長者たちや淑女たちは聞いたことに
- 1804 sino sino homatpa p ne kusu sietuuyuna siparuyna ukoiyokunnure pa
本当にとっても驚くものだから、鼻を押さえ、口を押さえ、皆で驚いて
- 1805 “sonno sonno oroyaciki turep kamuy ne rokokay pe i=koramnukar kusu
「とてもとても驚いたことに、オオウバユリのカムイであった者が私たちを試しに
- 1806 kotan kosap ruwe ene maskino icakkere kaspā
村へと山を下りることが、このようにあまりにも汚すぎ、
- 1807 tanpe kusu heru aynu a=ne kusu
このために私たちはただの人間ですから、
- 1808 owse a=ecakke patek ki awa ene hawas h_i ta an
ただ汚がってばかりいたのですが、このような話があり、
- 1809 eposo kusu huskotoy wano asuru as pe Uraspet un kur kotan kor nispa utar ne kusu

なるほど、昔から評判の高い者がウラシベツの村長たちであるので、

- 1810 naa uokkata kamuy upaskuma eraman usa pawetokkor kusu
なお代々のカムイの言い伝えを分かり、また弁が立つので
- 1811 kamuy koinkar hawe irayapka okay.
カムイが見守る話が感心なことです。
- 1812 sonno Uraspēt un kur kotan kor nispa an kuskeraypo
本当にウラシベツの村長がいてくれるおかげで、
- 1813 pirka turep rataskep tan te wano ney ta pakno
美味しいオオウバユリの山菜がこれからは、いつまでも
- 1814 a=sannitpo⁷⁰ utar naa naa usantek ka ta⁷¹ urespa
我々のひ孫たちが、まだまだ子々孫々までが互いに養い合うことが

p.19

【原文翻刻】

ae ashkai hawe ne ari hawokai kane / tu wan on kami re wan onkami u / kakushteba tap orowa inne
utar / na turep kamui anukare a kusu / kanna sui eashka uko iyokunnu / reba tapkorachi okai mun
anak / ne akoro kotan kimun iwori e / shik ruwe ne ari hawe okai kane / ene akar wa haruhu akar kuni
/ i obittano Akoro katkemat turep / tono mat orowa no Aebakashnui / korachi inne katkemat utara /
hene autari obittano ebakashnu / orowa Inau ari sake ari turep tono / mat kamui orun oman kunine /
Anomi orowano inne Nishpa utara / korobe kamui chikoshinninup ne / yakka yaikota koro kuru eramo
/ kai nankonna hokure uina yan / ari itakan kane turep kamui / amba arki kamui korobe usapte / wa
Anukarepa chiki sui ashiri / kinne ukoiyo kunurpa kane shi / ne ikinne ene hawe okai i Nishpa / kamui
ankushkeraipo tantewano

【現代表記・日本語訳】

- 1901 a=easkay⁷² hawe ne.”
できる話です」
- 1902 ari hawokay kane tu wan onkami re wan onkami ukakuste pa.
と言いながら、二十の拝礼（オンカミ）、三十の拝礼を繰り返す。

⁷⁰ sannitpo 「子孫」【久保寺辞典稿】 p.279；「子孫」【人間篇】 p.488。

⁷¹ naa usantek kata, ~ kata 「なほ子孫末代までも」【久保寺辞典稿】 p.359。

⁷² 前にくる動詞ではなく easkay の方に人称接辞がつく例は他にもあり、yaikikkar / aeashkaishiri
「自ら防ぐことが 我出来たこと」(【ユーカラ集 6】 p.83) など。

- 1903 tap orowa inne utar ne turep kamuy a=nukare akusu
さてそれから、大勢にオオウバユリのカムイを私が見せたところ、
- 1904 kanna suy easka ukoiyokunnure pa.
またもう一度、皆揃ってとても驚く。
- 1905 “tap koraci okay mun anakne a=kor kotan kimun iwori esik ruwe ne”
「このようにある草は、我々の村の山の猟場にたくさんあるのです」
- 1906 ari haweokay kane ene a=kar wa haruhu a=kar kuni h_i
と言いながら、収穫して食糧にするやりかたを
- 1907 opittano a=kor katkemat turep tonomat orowano a=epakasnu h_i koraci
すべて私の妻が、オオウバユリの首領の女性から教えられたように
- 1908 inne katkemat utar hene a=utari opittano epakasnu orowa
大勢の女性たちや私の村人にすべて教え、それから
- 1909 inaw ari sake ari turep tonomat kamuy or un oman kuni ne a=nomi orowano
それからイナウで酒で、オオウバユリの首領の女性へと行くように私は祈り、それから
- 1910 “inne nispa utar kor pe kamuy cikosinninup ne yakka
「大勢の長者の皆さんが持つ物はカムイなる財宝ではありますが
- 1911 yaykota kor kur eramokay nankor_ na. hokure uyna yan”
自分で持つ人は分かるでしょう、さあお取りください」
- 1912 ari itak=an kane turep kamuy anpa arki kamuykorpe usapte wa a=nukare pa ciki
と私は言いながら、オオウバユリのカムイが持って来た財宝を皆取り出して、見せると、
- 1913 suy asirikinne ukoiyokunurpa kane sine ikir_ ne ene hawe okay h_i
また今一度、皆が揃って驚きながら、一斉にこのように言う――
- 1914 “nispa kamuy an kuskeraypo tan te wano
長者のカムイがいるおかげで、これからは

p.20

【原文翻刻】

kamui ratashkep pirika ra- / tashkep ene aei unno aeramo / kai wa taban tewano haru aka- / r wa ari ubaro oiki an eashkai / ko Akoro kamui korobe ponno / wen nankoro Nishpa kamui sak / beka somone yakka yayiraike / ibe ne Nishpa kamui akore / kusu ne ari hawe okai koroka / shino akoban oar somo somo / Akoro na sonno Asakbe ikorka / somone nepka yayiraike ibe a / nakne ponnoka somo Akonrusui / ouse tan tewano Ainu moshiri / ebittano turep ratashkep kamui / ratashkep haru akar wa

aubar / oiki asuruhu Anu ko anakne bak / no Aenubetnep isam ruwe taban / ari itakan kane Aeyayu
nashke / yakka tumakke sama remakke / sama Aiko chari mashki no shinep / ka somo Auk yakne oar
oar Nishpa / utar ekeutum wen noine iramu / an tambe kusu tup rep Akoro kuni / Aye awa shino
Nishpa utara enubetne /

【現代表記・日本語訳】

- 2001 kamuy rataskep pirka rataskep
カムイなる山菜、美味しい山菜を、
- 2002 ene a=e h_i unno a=eramokay wa
このように食べるのだということまで私たちは分かって
- 2003 tapan te wano haru a=kar wa ari uparooyki=an easkay ko
これからは食糧を私たちがこしらえて、それでもって口を養うことができると、
- 2004 a=kor kamuykorpe ponno wen nankor,
私たちの財宝はいささか見劣りするでしょうし、
- 2005 nispa kamuy sak pe ka somo ne yakka⁷³
長者のカムイが持たない物（不足している物）でもないのですが、
- 2006 yairayke ipe⁷⁴ ne nispa kamuy a=kore kusu ne.
感謝の品として長者のカムイに差し上げましょう」
- 2007 ari haweokay korka
と言うが、
- 2008 “sino a=kopan oar somo somo a=kor na.
「本当に私は断り、決して決して受け取りませんよ。
- 2009 sonno a=sak pe ikor ka somo ne.
本当に私たちが持たない物は財宝でもないのです。
- 2010 nep ka yayirayke ipe anakne ponno ka somo a=kor_rusuy

⁷³ この表現は幾つも用例がある。aoka anakne a=sak pe ka somo ne kusu 「私たちは何も不足しているものはないので」【国研アーカイブ】木村きみ「ぶどうづるの輪がトバットゥミを退けてくれた話」351行目。

⁷⁴ この yairayke ipe は文脈からして ipe が「食べ物」ではなく「実質」であり、「感謝の品」を指しているのではないだろうか。同じ表現は上田トシ氏 (Shiraishi 2003: 159-60) に用例があり、ここでは yairayke ipe a=se wa ek=an ruwe ne 「We appreciate it very much so we came to you with a lot of food」と「食べ物」として訳されているが、ここは夜襲（群盗、topattumi）を知らせて村人たちとともに命を救ってもらったお礼なので、ただ食べ物ではなく様々な宝物が入っていると考える方が良さそうで、ここも「感謝の品」と訳すべき箇所であるかもしれない。

何も感謝の品は、少しも欲しくないのです。

- 2011 ouse tan te wano aynu mosir epittano
ただこれから人間のくの中に
- 2012 turep rataskep kamuy rataskep haru a=kar wa
オオウバユリの山菜、カムイなる山菜の食糧を我々が作って
- 2013 a=uparoyki asuruhu a=nu ko anakne pakno a=enupetne p isam ruwe tapan”
皆で口を養うという話を私たちは聞いたなら、これほどに喜ばしいことはないのだ」
- 2014 ari itak=an kane a=eyayunaske yakka tu makkesama re makkesama a=i=kocari.
と私は言って断るけれども、二度三度と（何度も）人は私に強いる。
- 2015 maskino sine p ka somo a=uk yakne
まさか一つも私が受け取らないと
- 2016 oar oar nispa utar ekewtumwen noyne iramu=an.
まったくまったく長者たちがそのことに気を悪くするだろうと私は思う。
- 2017 tanpe kusu tup rep a=kor kuni a=ye awa sino nispa utar enupetne.
なので二つ三つと受け取ろうと私は言ったところ、とても長者たちは喜ぶ。

p.21

【原文翻刻】

orowano shisak tonoto kamui tonoto / Auko ashi keshto iku tuikata ibe tui / kata nishpa utar Aeneusar
kane orowa / no nishpa utar katkemat utar / boronno boronno yayiraike onkami / koro baye okaketa
sui Akoro katke- / mat tura tun ane wa uko nish- / mu an kane ukookai an orowano / inkaran awa nusa
otta an a / turep kamui hene Inau hene / shito hene konep pirika Aep he / ne boro ri – san akar hine
kashi / keta boronno ri ikiri Akar wa / Aante awa okakochi an kane / shiran shino iyokunure an /
orowano Akoro katkemat hene Autari utar inne tobaha keshto / turepta kusu ekimun ouse / terkepa(?)
ene akari hene Akoro / katkemat Autari utar ebakash / nu kotanba un kotan kesh un / turep uta an humi
yakna / tara autari utara nubet ne / kunip nepne kusu keshto mi / na hawe itak hawe orone ambe

【現代表記・日本語訳】

- 2101 orowano sisak tonoto kamuy tonoto a=ukoasi⁷⁵
それから、またとない酒宴、カムイなる酒宴を私たちはうち催し、

⁷⁵ 【ユーカラ集1】p.384において shisak tonoto / kamui tonoto / aukoante 「洋々たる酒宴が 善美なる酒宴が うちひらけた」と金田一京助が訳しており、この箇所を参考にした。

- 2102 kes to iku tuyka ta ipe tuyka ta nispa utar a=enewsar⁷⁶ kane orowano
毎日酒を飲む合間に、食事をする合間に長者たちと私はおしゃべりをしつつ、それから
- 2103 nispa utar katkemat utar poronno poronno yairayke onkami kor paye okake ta
長者たち、淑女たちがたくさんたくさん感謝を述べ、拝礼（オンカミ）をしつつ去る後に
- 2104 suy a=kor katkemat tura tun a=ne wa ukonismu=an kane ukookay=an.
また妻と私は二人で、寂しく思いながら共に暮らす。
- 2105 orowano inkar=an awa
それから私が見てみたところ
- 2106 nusa or_ ta an a turep kamuy hene inaw hene sito hene
幣棚のところにあったオオウバユリ（のカムイ）も、イナウも、シト（団子）も
- 2107 konep pirka aep hene poro ri san a=kar hine
何か美味しい食べ物も、大きな高い棚を私作って
- 2108 kasike ta poronno ri ikiri a=kar wa a=ante awa ohakoci an⁷⁷ kane siran.
その上にたくさん、それらのうず高い列を作って置いたのだが、なくなっている様子だ。
- 2109 sino iyokunure=an.
とても私は驚く。
- 2110 orowano a=kor katkemat hene a=utari utar inne topaha
それから、私の妻や村人たちが大勢で
- 2111 kes to turep ta kusu ekimun ouse terke pa
毎日オオウバユリ掘りに山へ行き、ひたすら跳び回り、
- 2112 ene a=kar h_i hene a=kor katkemat a=utari utar epakasnu
このように作るのだということも私の妻が村人たちに教え

⁷⁶ enewsar 「…と一緒に話をして楽しむ」【沙流辞典】 p.99 とあり、この動詞は四方山話をする相手を目的語としてとるようだ。

⁷⁷ 【登別くらし】 p.26 においては、この表現は動詞としてとられ、e=ohakoci=an 「お前を持ち去られて」とされているが、oha が「空である」、koci が「跡、くぼみ」を意味する kot の所属形でありうることを考えると、ohakot で名詞なのであって、e=ohakoci an となっているのではないだろうか。【ユーカラ集 6】 p.102 においても、ine hempara / nep kotani / chioomante wa / ohakochi an ruwe / okai chiki 「いつ 何村へか 行ってしまって 空屋になっていること であるから」という一節があるが、この文脈はこの主語である登場人物のトンプオルンクルが連れ去られたわけではなく、金田一京助の訳も上記の解釈を踏まえているようで、やはりこれも an は人称接辞ではなく動詞「～がある、～になる」なのであろう。

- 2113 kotan pa un kotan kes un turep uta an humi yaknatara⁷⁸.
村の上手にも、村の下手にも、オオウバユリを白でつく音が鳴り響く。
- 2114 a=utari utar nupetne kuni p ne p ne kusu kes to mina hawe itak hawe
私の村人たちも喜ぶはずのものであるので、毎日笑う声、話をする声が

p.22

【原文翻刻】

hawash chiki aokai ne yakka shi / no nubetne an aekiroro an kane / Akor katkemat turep uta boron /
no boron no irup uk wa satke / keshto irup shito ashuye wa hene / ama wa hene Ae boronno Ae neko
/ na Ae yakka sonno keran son / no keutum oshi wano turep tono / mat oshi onkami an irup auk /
okake nei shichihhi aonka hine / sui Atoiko uta wa rupne akam / akar wa soita keshto pirikano / asatke
nei okaibe aborse katu on / turep ne ruwe ne ne on turep / sakba hene mataba hene ae naa / Aeroki ne
ashiri turep hetukba wa / ata kane tu kotan kama rekotan / kama asur ekwa inu an hike / tane anakne
Ainu moshiri ebitta / no turep ratashkep kamui rata- / shkep ainu orota okai i bishno / bishno ene akar
kuni ene ae kuni / Aubakashnu wa inne utara shino / nubetne wa boronno boronno haru / kar wa eubar
oiki koro shiri okai ru

【現代表記・日本語訳】

- 2201 oroneanpe hawas ciki aokay ne yakka sino nupetne=an a=ekiroroan kane
まったくもって立つと、私もとても喜び、[そのことを] 楽しく思い
- 2202 a=kor katkemat turep uta poronno poronno irup uk wa satke.
私の妻はオオウバユリを白で搗き、たくさんたくさん澱粉を取り出す。
- 2203 kes to irup sito a=suye wa hene a=ma wa hene a=e.
毎日澱粉のシト（団子）を私たちは煮たり、焼いたりして食べる。
- 2204 poronno a=e, nekona a=e yakka sonno keran.
たくさん私たちは食べ、どのように食べても本当に美味しい。
- 2205 sonno kewtum osi wano turep tonomat osi onkami=an.
本当に心の底からオオウバユリの首領の女性に私は拝礼（オンカミ）する。
- 2206 irup a=uk okake ne sicihi a=onka hine suy a=toykouta wa

⁷⁸ この yaknatara という単語は、英雄叙事詩に幾つかの用例が見え、isis haw konna yuknatara 「怒号する声 がりがりめりめり」【ユーカラ集2】 p.108 というのが典型である。【鹿の腹の中2】 p.209 には、sito uta an humi koyaknatara 「糞（しとぎ）作りの搗き物をする音が響き渡る」という用例があり、搗き物をする際の音もこれで表現されるらしい。

- 澱粉をとった後に、その残りかすを発酵させて、またそれをしっかり搗いて
- 2207 rupne akam a=kar wa soy ta kes to pirkano a=satke
大きな輪っかを作って外で毎日よく乾燥させ、
- 2208 neokaype a=porse katu ontuprep ne ruwe ne.
それらを名付けてオントウレブと呼ぶのである。
- 2209 ne ontuprep sak pa hene mata pa hene a=e.
そのオントウレブを夏にも冬にも我々は食べる。
- 2210 naa a=erok h_i ne asir turep hetuk pa wa a=ta kane
まだ私たちが住む所では(?)新しいオオウバユリが出て来て、それを収穫して、
- 2211 tu kotan kama re kotan kama asur ek wa inu=an hike
二つの村を越え、三つの村を越え、噂が届いて私が耳にすることは、
- 2212 tane anakne aynu mosir epittano
今や人間のくの中に
- 2213 turep rataskep kamuy rataskep aynu oro ta okay h_i
オオウバユリの山菜、カムイなる山菜が人間の所にあることを
- 2214 pisno pisno ene a=kar kuni ene a=e kuni a=upakasnu wa
毎回毎回、このように作るように、このように食べるようにと私は皆に教えて
- 2215 inne utar sino nupetne wa poronno poronno haru kar wa
大勢の者たちがとても喜んで、たくさんたくさん食糧を作って
- 2216 euparoyki kor siri(?)⁷⁹ okay ruwe ne.
それで口を養っている様子があるのだ。

p.23

【原文翻刻】

we ne kotan bishno bishno urashbet / un Nishpa kamui an kushkeraipo / keran ibe ashiri kamui
ratashkep / ae shiri okai moshiripa bakno moshi / rikesh bakno urashbetun kotan / koro Nishpa an
kushkeraipo ari / boronno boronno isembirke aye ru / we ne ari okaibe Anu chiki boohene / turep tono
mat Ako yairaike koro / Anan kamui yepne kusu ukopo / sak utara Ane awa tane anak / ne po tum Ao
kane keshba / Akoro katkemat turep haru eyai / ko yuptek haruhu kara boronno / usaine usaine akar
wa Aea aea / yakka ponnoka Aekashtek ka so / moki Apo utari obittano ikatun kane / Aureshpa inu
anko toop tuima / kotan otta ashtoma keman yakka / turep irup ari on turep ari kotan / hebuni yak aye

⁷⁹ どうも kor と siri のどちらかが余計で、片方だけで十分なように見える。

shino iyokunnure / an rabokita ison kuru Ane a koro- / ka naa naa sonno ison an neita / Nishpa ne utara okai yakka Ao- / kai bakno Nishpa ne kuru shinen

【現代表記・日本語訳】

- 2301 kotan pisno pisno
それぞれの村ごとに
- 2302 “Uraspet un nispa kamuy an kuskeraypo
「ウラシベツの長者のカムイがいてくれるおかげで
- 2303 keran ipe, asir kamuy rataskep a=e siri okay
美味しい食事、新たなカムイなる山菜を私たちは食べるようで
- 2304 mosir pa pakno mosir kes pakno
くにの上手まで、くにの下手まで
- 2305 Uraspet un kotan kor nispa an kuskeraypo”
ウラシベツの村長がいるおかげで」
- 2306 ari poronno poronno i=sempirke a=ye ruwe ne ari okay pe a=nu ciki
とたくさんたくさん私の陰で人々が言っているのだということを私は聞くと、
- 2307 poo hene turep tonno mat a=koyairayke kor an=an.
なおいっそうオオウバユリの首領の女性に私は感謝しながらいる。
- 2308 kamuy ye p ne kusu ukoposak utar a=ne awa
カムイが言うことなので、私たちは子どもがない者たちであったが
- 2309 tane anakne po tum a=o⁸⁰ kane
今や私たちは子どもたちの中にいて [=子どもに恵まれ]、
- 2310 kes pa a=kor katkemat turep haru eyaykoyuptek haruhu kar
毎年私の妻はオオウバユリの食糧に精を出して作り、
- 2311 poronno usayne usayne a=kar wa a=e a a=e a yakka
たくさんあれこれと私たちは作って、食べ続けても、
- 2312 ponno ka a=ekastek ka somo ki.
少しも私たちはそれに飽きることがない。

⁸⁰ 他の用例では動詞に oma が使われるようだ——nispa a=ne, po tum oma=an 「長者に僕はなつた。息子が生まれた」【銀の柳林】 p.131。ただし、【銀の柳林】においても、すぐ後ろの叙述から主人公には子どもが複数生まれていることが分かるため、この表現における po は単数ではなく、さらにいえば「息子」（男性）にも限定されないようだ。そのため、本稿では訳を「子ども」としている。

- 2313 a=poutari opittano i=katun kane a=urespa, inu=an ko
私たちの子どもらは皆が私たちのようにして皆で暮らし、私が聞くところでは
- 2314 toop tuyma kotan or_ ta astoma kem an yakka
はるか遠い村でひどい飢饉になっても
- 2315 turep irup ari ontuprep ari kotan hepuni yak a=ye sino iyokunnure=an.
オオウバユリの澱粉で、オントウレブで村が再興するのだと人が言い、私はとても喜ぶ。
- 2316 rapoki ta isonkur a=ne a korka naa naa sonno ison=an
その間に、猟の上手な者で私はあったが、もっともっと非常に猟が上手くなり、
- 2317 ney ta nispa ne utar okay yakka aokay pakno nispa ne kur sinen ka isam.
どこの長者である人たちがいても私ほどの長者である者は一人もいない。

p.24

【原文翻刻】

ka isam turep tonno mat neita / bakno ne yakka Aoka nomi / Apo utari hoshki tuk ike ira- / mkobashte
ison an enehetap / ne ukopo sak an wa uko nish / mu an humi okay rok awa ka- / mui renkai ne po
shirieshikte an / kusu sonno uwe ramu nishte an / Akoro katkemat hene pirika / keutum korobe ne
kusu sonno / sonno kamui koinkar shiri / aeraman Akoro katkemat ne / yakka ramma nubet ne tura /
matnepo utari shiramkobashtere / shiarikikino toi ta haru hene / konep mun haru hene koyupte / kba
tambe kusu neita bakno ne / yakka nep ae rusui nep Akonru / suika somoki no pirika shikup / Akiroki
ne Akoro katkemat tu / ranno tane anakne kemabase / An wa monraike eaikap an wa / chise otta okay
an Apo utari Ihor? / ka reshba Anitpo utari Auko omap / koro ramma kane katkoro kane

【現代表記・日本語訳】

- 2401 turep tonno mat ney ta pakno ne yakka a=okanomi.
オオウバユリの首領の女性にいつまででも私は祈りを捧げる。
- 2402 a=poutari hoski tuk h_ike i=ramkopaste ison=an.
私の息子たちは先に育った者が私を助け、狩り上手である。
- 2403 ene hetap ne ukoposak=an wa ukonismu=an humi okay rok awa
あんなにも私たちには子どもがいなくて、互いに寂しい思いでいたのだが
- 2404 kamuy renkayne posiresikte=an⁸¹ kusu sonno ueramuniste=an.

⁸¹ 金成マツは自身のノートに筆録する際に shirieshikte と書くときと shireshikte と書くときがあるのだが、動詞の目的語として抱合されるのは所属形ではなく概念形であると考え、語形としては siresikte なのであろうと判断した。

カムイの思召しで私たちは子どもに恵まれるので、とても二人とも心丈夫になる。

- 2405 a=kor katkemat hene pirka kewtum kor pe ne kusu
私の妻もきれいな心を持つ者だから
- 2406 sonno sonno kamuy koinkar siri a=eraman.
とてもとてもカムイに見守られている様子を私は見てとる。
- 2407 a=kor katkemat ne yakka ramma nupetne tura matnepo utari siramkopastere
私の妻もいつも喜びとともに娘たちに自分を手伝わせ
- 2408 siarikikino toy ta haru hene konep mun haru hene koyuptek pa⁸².
とても精を出して畑を耕し、食糧でも何の山菜でもよく勤勉に働く。
- 2409 tanpe kusu ney ta pakno ne yakka nep a=e rusuy nep a=kor_rusuy ka somo ki no
なので、いつまでも何も私たちは食べたいとも欲しいとも思わないで
- 2410 pirka sikup a=ki rok h_ine
良い暮らしを私たちはして
- 2411 a=kor katkemat turanno tane anakne kemapase=an wa
私の妻とともに今は私たちは年をとって足がきかなくなって、
- 2412 monrayke eaykap=an wa cise or_ ta okay=an. a=poutari i=horkarespa
仕事ができなくなって、家にいる。私たちの子どもたちが逆に面倒を見てくれ、
- 2413 a=nitpo utari a=ukoomap kor ramma kane katkor kane okay=an ayne
孫たちを私たちは二人で可愛がりながら、いつもいつも変わりなく暮らしたあげくに

p.25

【原文翻刻】

okai an aine tapne kane otte eta / tapne tap ne turep tonomat orush / be an ruwe ne orowano tane bakno / Ainu moshiri ebitta no turep / haru Ainu korowa ibe ikkeu / ne okai ruwe ne katu Aokai ne / yakka ouse Ainu ane kusu / atbaketa shino yaikouyebeker / an ishitoma an a koroka tanko / rachi okaibe otta somun? kamui / nishuk ambe ne nankoro ari / yainu an kusu kamui nishuk / An kushkeraipo nepneyakka / pirika no Aeraman kamui iko / yayattasa tambe kusu ukoposak / utar Anerok koroka turep tono / mat an kushkeraipo shiko utara / echine ruwe tabanna tambe kusu / neita bakno turep haru boronno / haruhu kar yan iteki toranneno / eebakita echi obittano turep tono mat okanomi yan orowa tante wa / no sui nekona okaibe an wa ne / yakka kamui ari aborosep ramma / Ashiko in kare Anomi

⁸² この複数の助動詞 pa は、目的語の複数 (haru と mun haru) を受けているのか、主語の複数 (妻とその娘たち) を受けているのか、どちらであろうか。

wa okai anko

【現代表記・日本語訳】

- 2501 “tapne kane otteeta tapne tapne turep tono mat oruspe an ruwe ne.
「こうして、ずいぶん昔にこれのようにオオウバユリの首領の女性の話があるのだ。
- 2502 orowano tane pakno aynu mosir epittano turep haru a=aynukor wa
それから今まで人間のくの中に中がオオウバユリの食糧を大事にして
- 2503 ipe ikkew ne okay ruwe ne katu, aokay⁸³ ne yakka ouse aynu a=ne kusu
食糧の中心としてあるのである様子は、私もただの人間であるから
- 2504 atpake ta sino y McKayepek=an isitoma=an a korka
最初はとても心配し、恐れたのだけれど
- 2505 <tan koraci okay pe or ta somun⁸⁴ kamuynisuk=an pe ne nankor>
〈このようなことでこそカムイを頼みとするものであろう〉
- 2506 ari yaynu=an kusu kamuy nisuk=an kuskeraypo nep ne yakka pirkano a=eraman
と私は思うから、カムイを頼みとし、そのおかげで何でも私はよく分かるようになる。
- 2507 kamuy i=koyayattasa tanpe kusu ukoposak utar a=ne rok korka
カムイが私に返礼をし、そのために、子どものない者たちで私たちはあったが、
- 2508 turep tono mat an kuskeraypo siko utar eci=ne ruwe tapan na.
オオウバユリの首領の女性のおかげで生まれる者たちでお前たちはあるのだぞ。
- 2509 tanpe kusu ney ta pakno turep haru poronno haruhu kar yan.
だからいつまでもオオウバユリの食糧を、たくさんその食糧を作りなさい。
- 2510 iteki toranneno eepakita eci=opittano turep tonomat okanomi yan.
決して怠けずに、その上にお前たち皆がオオウバユリの首領の女性に祈りを捧げなさい。
- 2511 orowa tan te wano suy nekona okay pe an wa ne yakka
それから、これからはまた、どんなことがあっても
- 2512 kamuy ari a=porse p ramma a=sikoinkare a=nomi wa okay=an ko anakne
カムイと呼ばれるものに、いつも私たちが自らを守ってもらい、祈っているならば

p.26

【原文翻刻】

⁸³ 幌別のアイヌ語においては aokay が単数の人称代名詞としても用いられるため (【ユーカラ集 1】 p.84 など)、個々の箇所では主人公一人だけを指して使われていると考えるのがよさそうだ。

⁸⁴ somun 「助詞 (反語の係) (Cof. amun, hetap, hetapne)」【久保寺辞典稿】 p.312。

Anakne annisapne nepka Ae / homatup an wa neyakka kamui / shikoin kare Akiko anakne / kamui hosarhapne na ikanebe / ka nepneyakka echikowayasap / kotom no anna ari tu pirika / kunip re pirika kunip Apoho / utari okkayo hene menoko utar / hene Anitpo utari hene obitta / no Aebakashnu Akoitak hoppa / kane Ainu buri ene okai i ne / kusu tane anakne Akoro katkemat / turanno uwesamanno kamui / onne pirika onne Akikushtap / Aye hawe an ari urashbetun / kotan kon Nishpa yayetuitak / hawe an.

八月七日

【現代表記・日本語訳】

- 2601 annisapne nep ka a=ehomatu p an wa ne yakka
急に何か驚くようなことがあるのであっても
- 2602 kamuy sikoinkare a=ki ko anakne kamuy hosarpa p ne na.
カムイに自らを守護してもらえば、カムイが振り向くのだよ。
- 2603 ikanepeka nep ne yakka eci=kowayasap⁸⁵ kotomno an na”
決して何であってもおまえたちは愚かな振る舞いをしてはいけないよ」
- 2604 ari tu pirka kuni p re pirka kuni p
と二つの良かるべきこと、三つの良かるべきことを
- 2605 a=pohoutari okkayo hene menoko utar hene a=nitpoutari hene
子どもたちに、男たちにも女たちにも、孫たちにも
- 2606 opittano a=epakasnu a=koitakhoppa kane
皆に教え、言い残しながら
- 2607 aynu puri ene okai h_i ne kusu
人間のふるまいというのはこのようなことであるので
- 2608 tane anakne a=kor katkemat turanno uesamanno
今や私の妻と一緒に
- 2609 kamuy onne pirka onne a=ki kus tap a=ye hawe an
カムイなる古い、良き古いを私たちはするので、このように言う話なのだ
- 2610 ari Uraspet un kotan kor_nispa yayetuytak hawe an.
とウラシペツの村長が自ら語る話だ。

⁸⁵ wayasap 「愚かだ」(cf. 【ユーカラ集 1】 p.409) は金成マツの筆録に複数の例がみえるが、ここでのように kowayasap という形は管見のところ他に例が見えない。nep ka があるために、これを目的語として受けて kowayasap となっているのであろう。

文献略号

【雪狐】：藤田護（2024）「金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈——金田一京助宛ノート散文説話「雪狐のカムイ（upas cironnup kamuy）」『ユーラシア言語文化論集』第26号、千葉大学ユーラシア言語文化論講座、pp.235-294。

【鹿の妻】：藤田護（2023）「金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈——金田一京助宛ノート散文説話「鹿を妻とした貧乏人（yuk mat ne kor wen aynu）」『ユーラシア言語文化論集』第25号、千葉大学ユーラシア言語文化論講座、pp.251-297。

【カワウソ私に化ける2】：藤田護（2022）「金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈——金田一京助宛ノート散文説話「カワウソが私に化けるウェベケレ（esaman i=sinere uepeker）」（後半）」『ユーラシア言語文化論集』第24号、千葉大学ユーラシア言語文化論講座、pp.377-413。

【カワウソ私に化ける1】：藤田護（2021b）「金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈——金田一京助宛ノート散文説話「カワウソが私に化けるウェベケレ（esaman i=sinere uepeker）」（前半）」『ユーラシア言語文化論集』第23号、千葉大学ユーラシア言語文化論講座、pp.143-181。

【金の煙草入れ】：藤田護（2021a）「金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈——金田一京助宛ノート散文説話「金の煙草入れ（konkani tampakop）」中川裕編『アイヌ語・アイヌ文化研究の課題』千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書、第358集、pp.15-42。

【六人の山子】：藤田護（2018）「金成マツ筆録ノートの口承文学テキストの原文対訳及び解釈——散文説話「六人の山子（iwan yamanko）」中川裕編『アイヌ語の文献学的研究（3）』千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書、第325集、pp.25-65。

【虎杖丸別伝】：金成マツ口述・金田一京助（1993[1967]）「虎杖丸別伝」『金田一京助全集第十巻』三省堂、p.95-432。

【ユーカラ集】：金成マツ筆録、金田一京助訳注（1959-1975）『ユーカラ集 I～IX』（全9巻）三省堂。

【ユーカラシリーズ】：金成マツ筆録、萱野茂・蓮池悦子・萱野志朗・切替英雄・高橋靖以訳注（1978-）『ユーカラシリーズ』各巻、北海道教育委員会。

【登別くらし】：金成アシリロ語り、金成マツ筆録、蓮池悦子訳注（2001）「登別市でのくらし——オンバイロ掘りで子を忘れた」北海道教育庁生涯学習部文化課編『アイヌの暮らしと言葉7』アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズ14、北海道教育委員会、pp.11-65。

【銀の柳林】：金成アシリロ語り、金成マツ筆録、蓮池悦子訳注（2000）「銀の柳林、金の柳林」北

北海道教育庁生涯学習部文化課編『トウイタタ（昔語り）3』アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズ13、北海道教育委員会、pp.41-141。

【鹿の腹の中2】：金成アシリロ語り、金成マツ筆録、蓮池悦子訳注（1997）「鹿の腹の中で赤ん坊が泣く（承前）」北海道教育庁生涯学習部文化課編『アイヌのくらしと言葉5』アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズ10、北海道教育委員会、pp.171-254。

【知里真志保ノート5】：北海道教育委員会編（2006）『知里真志保フィールドノート(5)』北海道教育委員会。

【知里真志保ノート4】：北海道教育委員会編（2005）『知里真志保フィールドノート(4)』北海道教育委員会。

【神謡集】：知里幸恵（2023[1978]）『アイヌ神謡集（補訂新版）』岩波書店（岩波文庫）。

【ノート版神謡集】知里幸恵（北道邦彦編）（2000）『ノート版アイヌ神謡集（改訂版）』弘南堂書店。

【音声資料】：田村すず子（1984-1999）『アイヌ語音声資料1～12』（全12巻）、早稲田大学語学教育研究所。

【久保寺辞典稿】：久保寺逸彦（2020[1992]）『アイヌ語・日本語辞典稿』（久保寺逸彦著作集④）草風館。

【人間篇】：知里真志保（1993[1954]）『知里真志保著作集別巻2——分類アイヌ語辞典人間編』平凡社。

【バチラー辞典】：ジョン・バチラー（1938）『アイヌ・英・和辞典』第4版、岩波書店。

【方言辞典】：服部四郎編（1964）『アイヌ語方言辞典』岩波書店。

【千歳辞典】：中川裕（1995）『アイヌ語千歳方言辞典』草風館。

【沙流辞典】：田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』草風館。

【萱野辞典】：萱野茂（2002）『萱野茂のアイヌ語辞典（増補版）』三省堂。

【白老アーカイブ】：国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ <https://ainugo.nam.go.jp/>

【国研アーカイブ】：アイヌ語口承文芸コーパス—音声・グロス付き—
<https://ainu.ninjal.ac.jp/folklore/>

引用文献

Shiraishi, Hidetoshi (2003) "Folktales of the Saru dialect of the Ainu 2: Ueda Toshi's Uepeker 2," *Journal of Chiba University Eurasian Society*, Vol. 6, pp.143-192.

（ふじた まもる・慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部）

Aynu Oral Text in the Written Notebooks by KANNARI Matsu
Prose Tale (uepeker) "A Woman with Bald Head Covered with White Scab Comes
from East" Written for KINDAICHI Kyosuke

FUJITA, Mamoru

Summary:

This article forms part of a series of efforts by the author to make accessible the oral texts written down in the Aynu language by KANNARI Matsu, in the notebooks that were passed on to KINDAICHI Kyosuke and CHIRI Mashiho. Here we publish the prose tale “sine esukopitce retar cima koeyanrasne menoko mosirpa wano ek uepeker” (A Woman with Bald Head Covered with White Scab Comes from East). The main protagonist is the village leader of *Uraspet* who receives the aforementioned woman, who turns out to be the woman deity chief (*kamuy tonomat*) of giant lily (*turep*). By receiving the deity respectfully and eating what seems to be her scab cooked in hot water, she discloses her real identity to the village leader, and transmits the techniques of preparing *turep* food to his wife. In the introductory section, we lay out the philological details of the text and possible interpretations of the story, followed by an outline of the story in Japanese. After some remarks on the Aynu orthography employed here, we present the main part of this article, which is a page-by-page transcription of the original written Aynu text, followed by a modified text with contemporary Aynu orthography and its translation to Japanese.